



2018年卒 大学生就職活動調査

結果報告書

2018年5月10日

一般財団法人 雇用開発センター

この報告書は一般財団法人雇用開発センターが2017年度に行った「2018年卒大学生就職活動調査」について集計結果をまとめたものです。

この調査は大学・大学院生が社会人になるにあたりどのような意識や自覚を持って就職活動を実行し経験してきたかを多様な視点から分析できるように設計されています。

この調査を基に雇用開発センターが運営する20代向けサイト「ひらく・ナビ20」ユーザーに向けてサイト上で多様な情報を提供してまいります。

更に、雇用環境は流動化の波が激しく、特に就職活動の取り決めやスケジュールの変更も予定されています。近年、買い手市場から売り手市場に変化し、学生に選択肢は広がりますが、社会人に巣立つための就職活動はことさら重要になります。

また、最初の就職から3年以内に転職する人たちが3割を占めるという調査データもあり、新卒就職のミスマッチが常態化しています。

最後に同世代ユーザーと同様に、この調査データを基に採用企業や大学（キャリアセンター）等が、学生に対しどのような就職活動の取り組みや変化への対応の参考にいただければ幸いです。

【調査の背景／目的】

企業の採用意欲が高まり、「売り手市場」と言われた2018年卒の新卒就職活動ですが、2016年卒から3月にエントリー開始、さらには2017年卒から「選考開始」が2ヵ月前倒しとなりました。

学業優先、グローバル人材の育成（留学の促進）がスケジュール変更の目的でしたが、実際に学生は、「どう捉え」「どのような就職活動を行ったのか」。

今回の調査は、「売り手市場」「新スケジュール」という環境下、学生の就職活動の実態を把握することを目的に実施いたしました。

調査時期としては、

- ①エントリー開始3か月後の6月上旬
 - ②就職活動がほぼ終了した3月下旬
- の2回にわたって実施しました。

また、内定辞退やインターンシップの活用方法、Uターン就職活動についても聞いています。

【調査実施概要】

本調査は下記のとおり調査時期を変えて、2回実施された。
本レポートは第2回目（2018年3月実施）を中心に作成している。

1. 調査実施時期

- 【第1回目（6月調査）】2017年6月14日～6月21日
- 【第2回目（3月調査）】2018年3月14日～3月23日

2. 調査対象者

- 全国の2018年3月卒業見込みの学生
- 四年制大学の大学4年生及び大学院2年生男女
- 就職活動を終了、または現在就職活動中

- イブソス株式会社 J-panelより抽出

3. 有効回収数

	大学4年生	大学院 2年生	計
第1回目（6月調査）	427	123	550
第2回目（3月調査）	428	122	550

4. 調査方法

- オンライン調査

5. 調査実施機関

- イブソス株式会社

結果のまとめ	1	6. 各種就職情報の利用について	
1. 対象者の属性	5	(1) 就職情報サイトへの登録	28
2. 就職活動の現況	6	(2) 就職活動方法の情報入手源	29
3. 内定の取得状況		(3) キャリアセンターについて	30
(1) 内定取得率	7	(4) 就職活動でのスマホとPCの活用	32
(2) 内定取得社数	8	7. 職業能力と仕事観および就労上の重視点について	
(3) 内定辞退の有無	9	(1) 職業能力に対する自身の強み	33
(4) 内定辞退数	10	(2) 仕事観	34
(5) 内定辞退時期	11	8. 就職希望企業と就職を決めた企業、および最終的な選定基準	
参照① 内定取得後の就職活動の継続	12	(1) 希望していた企業タイプと最終的に決めた企業タイプ	35
参照② 企業側からの内定の通知方法と学生側からの承諾方法	13	(2) 希望していた企業タイプと最終的に決めた企業タイプとの相関からみた希望達成率	36
参照③ 学生が受けたフォローの内容	14	(3) 企業選定基準	37
4. 就職活動の開始時期と面接について		(4) 具体的な企業選定基準（自由回答／MA）	38
(1) 就職活動時期	15	9. 就職活動全般を振り返って	
(2) 面接 ①面接社数	16	(1) もっと早く取り組みればよかったこと	39
②面接開始時期	17	(2) 就活スケジュールの評価	40
③面接時の企業の対応－良い点と悪い点	18	(3) 学業と就活の両立に対する評価	41
5. 各種就職活動について		(4) 就活の満足度	42
(1) 就職活動種類別参加率	19	(5) 就活の満足理由	43
(2) インターンシップ ①参加したインターンシップの期間	20	(6) 就活の不満足理由	44
②インターンシップ参加時期	21	(7) 今回の就職活動の感想	45
③インターンシップ情報の入手先	22	(8) 社会人になることへの不安事	46
④参加したインターンシップの内容	23		
⑤インターンシップ参加企業の印象	24		
⑥インターンシップ参加企業への就職	25		
(3) 企業へのエントリー・説明会への参加	26		
(4) UIターン就職活動	27		

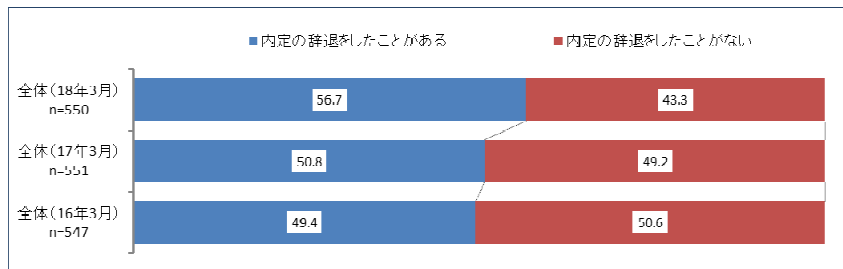
参考:調査票

調査結果の要約（まとめ）

3月時点での内定率は93.1%。男女別では男性88.1%、女性97.9%で前年に続き女性が男性を上回った。

また、「内定の辞退をしたことがある」学生は56.7%に上り、前年から5.9%増えている。【図1参照】

図1. 内定辞退率(%)

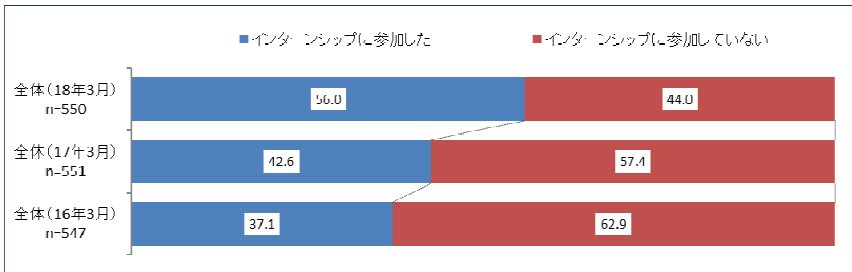


インターンシップについて、参加経験率は前年より13.4ポイント多い56.0%。参加期間は1日の「ワンデーインターンシップ」が63.0%で最も多く、前年からも3%伸ばしている。【図2参照】

内容は、「仕事体験」が前年から6.6%減の50.0%となっている。

昨年の政府と私大連による「ワンデーインターンシップ見直し」提言を受け、今後の動向が注目される。

図2. インターンシップ参加有無(%)

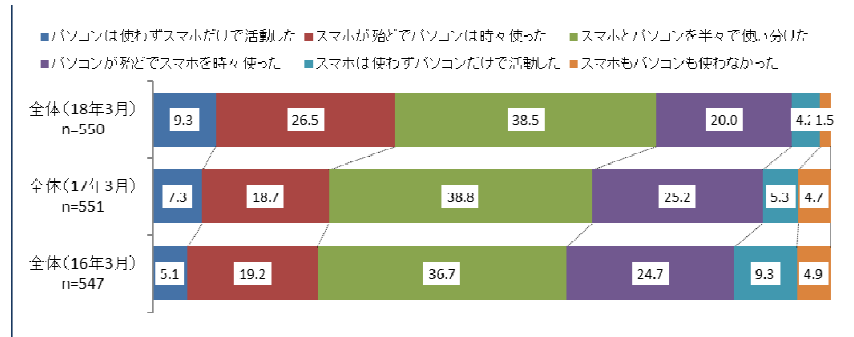


UIターン就職について、前年から8.2%増の22.2%の学生が「活動を行った」と回答。

スマホとパソコンの活用度合いは、「スマホが殆どでパソコンは時々」が26.5%と前年から7.8%増、逆に「パソコンが殆どでスマホを時々」が前年から5.2%減の20.0%となっている。【図3参照】

学生のスマホ依存の傾向が明確となっている。

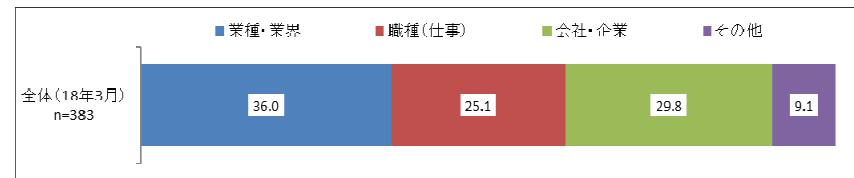
図3. 就職活動でのスマホとパソコンの活用(%)



仕事観は、「仕事とプライベートの両立」が前年から8.8ポイント増の66.2%で最も多くなっており、政府の働き方改革の影響がうかがえる。

最終的に就職先を選んだ基準を三択で選ばせたところ、「業種・業界」が一番多かったものの、「会社・企業」や「職種（仕事）」と三者にあまり差はみられなかった。【図4参照】

図4. 企業選定基準(%)



1. 対象者の属性

卒業後の進路は、就職が90.7%（民間企業71.6%、公務員系19.1%）、未だ就職活動の継続者は3.1%である。

2. 就職活動の現況

卒業間際の今回（2018年3月）調査時点での「就職活動終了者」は全体で93.5%で、前年より3.1%増加した。

2017年6月の調査時点で、すでに就職活動を終えた学生が48.7出現しており、すでに半数の学生がここで終了している。

3. 内定の取得状況

今回（2018年3月）調査時点での「内定取得者」は全体で93.1%であった（2017年6月時点65.1%）。

男性88.1%、女性97.9%で、前年に続いて女性が男性を上回った。

内定取得社数は1社が38.5%と最も多いが、16年・17年と比較しても2社以上の複数社から内定を取得する人が増え、平均取得社数は2.76社であった。

また、内定辞退経験者は全体で56.7%であった。前年から5.9%増加した。

辞退社数は1社が38.1%、2社が33.3%と1社または2社で7割を超えているが、3割程度の学生が3社以上内定を辞退している。

平均辞退社数は2.41社であった。

内定辞退時期のピークは、7～9月（44.9%）である。

しかし、選考活動開始前（2017年5月以前）の内定辞退率は34.8%にも及び、早期に選考活動が始まっていたことをうかがわせている。

4. 就職活動の開始時期と面接について

2017年3月の説明会解禁日以降から就職活動を開始した学生は全体の41.5%である。

一方で、解禁前の2月以前から活動を開始していた学生は累計すると58.6%と半数以上に上り、多くの学生が解禁前には動いていた現状がうかがえる。

2018年3月時点での平均面接社数は約10.8社である。

面接開始のピークは選考活動解禁前の3月～5月（55.4%）であり、更に2016年から2017年5月までの選考活動解禁前に面接を開始した学生は72.0%にも上っている。

面接時の良い印象項目は、「表情が穏やかで笑顔で対応」（52.6%）、「話をじっくり聞いてくれる聞き上手である」（50.5%）、「威圧的でなく学生目線で話す」（49.5%）が前年に引き続き高評価項目である。

逆に悪い印象項目は、「無気力で冷めた感じ」（33.1%）、「威圧的で学生の立場を考えていない」（30.6%）、「表情が乏しく笑顔で対応しない」（27.8%）などが前年同様悪い評価項目の上位に挙げられている。

また、「内定承諾を強要し、就職活動を終わるように迫られた」（通称オワハラ）は13.6%で前年よりやや上昇している。

5. 各種就職活動について

「企業へのエントリー」（70.4%）、「単独の会社説明会への参加」（62.0%）、「就職情報サイト（ナビ）への登録」（61.8%）が60%超えの就職活動である。

また、昨今注目されている「インターンシップ」への参加率は56.0%で前年より13.4%上回った。

インターンシップの参加期間としては、「1日」（63.0%）が最も多く、企業側のワンデーインターンシップ導入傾向が続いた結果となっている。

参加時期は前年と同様に、3年生時の8月と2月が多くなっている。

半数以上（54.9%）の学生はインターンシップ情報を「インターンシップ情報サイト」から得ている。次いで「キャリアセンター、就職課」からが49.4%と前年から11.1%増と大きく増えており、大学側のインターンシップへの積極的な取組みがうかがえる。

参加したインターンシップの主な内容は、「グループワーク」が最も多く（60.4%）、次いで「会社見学、職場見学、工場見学」（59.1%）「実際の仕事体験」（50.0%）である。

就業体験を伴わないワンデーインターンシップの見直しを提言した前年6月の政府発表や、現状のワンデーインターンシップを本来のインターンシップとは分離すべきと提言した前年11月の私大連の発表を受け、今後の動向が注目される。

インターンシップ参加企業（複数社ある場合はメインの1社）への就職意向を聞いたところ、インターンシップに参加したことによって、当該企業への就職意向が醸成された割合は33.8%である（インターンシップ効果）。また、「最初から志望企業だったので、就職したいと思った」学生は、全体で30.5%である。

インターンシップ参加学生（308人）の内、実際に参加した企業に就職したのは29.9%であった。

企業へのエントリー、合同企業説明会、企業の単独説明会それぞれの参加開始時期のピークは説明会解禁月（2017年3月）で、中でも「企業へのエントリー」は61.2%に上っている。

前年から8.2%増の22.2%の学生が「UIターン就活を行った」と答えており、5人に一人の割合となっている。

政府の地方創生への取組みによる、各府省庁・地方自治体の様々な移住支援施策が浸透しつつあることがうかがえる。

6. 各種就職情報の利用について

就職情報サイトへの登録は90.4%、未登録者は9.6%である。

サイト別の登録率は「マイナビ」が84.5%、「リクナビ」が81.8%と両サイトはそれぞれ80%超の圧倒的な登録率を誇っている。

就活の情報入手源は、「学校のキャリアセンターまたは就職課」（53.1%）、「学内での就職ガイダンス」（45.1%）、「就職情報サイト」（39.2%）、が上位情報入手源である。

キャリアセンターの利用率は63.3%と前年を大幅に上回った。

主な利用サービスは、「履歴書やESの添削依頼」（54.0%）、「職員やカウンセラーへの相談」（50.6%）、「求人票（掲示板、パソコン等で）、インターンシップ情報の閲覧」（47.7%）の順である。

一方、キャリアセンターを利用しない最大の非利用理由は「利用してもメリットがないと思うから」（55.0%）である。

就職活動でのスマホとパソコンの活用度合は、「スマホが殆どでパソコンは時々」が26.5%と前年から7.8%伸ばし、逆に「パソコンが殆どでスマホを時々」が前年から5.2%減の20.0%となっている。

「スマホが殆どでパソコンは時々」と「スマホだけで活動」の9.3%を合わせた35.8%は、「パソコンが殆どでスマホを時々」と「パソコンだけで活動」（4.2%）の合計の24.2%を、調査開始以降初めて上回った。学生のスマホ依存の傾向が明確となっている。

7. 職業能力と仕事観および就労上の重視点について

職業能力に対する自身の強み上位5項目（16項目中）は、「協調性」（38.4%）、「柔軟性・適応力」（32.2%）、「コミュニケーション能力、対人能力」（26.4%）、「特定の領域に関する専門知識」（24.2%）、「パソコンの操作」（18.7%）である。

就活生の仕事観は、「仕事とプライベートを両立させたい」が前年から8.8%増の66.2%で最も多くなっている。

政府の働き方改革施策が影響しているかと推察される。

8. 就職希望企業と就職を決めた企業、および最終的な選定基準

卒業後民間企業に就職する学生（383人）を対象に、就職活動を始める前に希望していた企業タイプと実際に就職を決めた企業タイプを尋ねた。

希望した企業タイプは、「安定企業」>「大企業」>「老舗企業」>「人気上位企業」の順である。

一方、実際に就職する企業タイプは「老舗企業」>「安定企業」>「大企業」>「知られていない企業」の順である。

希望するタイプの企業にどの程度就職できたのか（希望達成率）をみた。

「老舗企業」>「中小企業」>「安定企業」>「知られていない企業」>「成長企業」>「大企業」>「人気企業」>「新興・ベンチャー企業」。

最終的に就職先を選んだ基準を三択で聴いたところ、「業種・業界」（36.0%）が一番多かったものの、「会社・企業」（29.8%）や「職種（仕事）」（25.1%）と三者にあまり差はみられなかった。

最終的に就職先を選んだ基準を自由回答で具体的に聴いたところ、「社風」が最も多く、77人／383人中であった。次いで「職種・仕事内容のマッチ」（40人）、「安定・有名・大企業」（39人）で、「特にない・なんとなく」という回答も48人から上がった。

9. 就職活動全般を振り返って

就活前に、もっと早くから取り組みばよかったことは、「自己分析」（36.0%）、「業界研究」（30.9%）、「面接対策」（26.9%）、「仕事（職種）研究」（23.8%）、「企業研究」（21.6%）、「筆記試験対策」（18.0%）など多岐にわたるテーマが上位に挙がった。

就活期間の長さについては、46.0%の学生が「ちょうど良かった」と回答しており、前年同月調査の45.7%とほぼ同様であった。

一方、「就活期間が短いと思う」は20.2%、「就活期間が長いと思う」は12.0%である。

学業との両立については「両立できたので就活期間はちょうど良かった」が46.9%で最も多く、前年の47.4%とほぼ同様の数字となっている。

就職活動に対する全体の満足度は、「満足」（30.5%）と「やや満足」（46.7%）を合わせると77.2%で、前年同月調査の合計76.2%と同様高い数字となっており、売り手市場を受けて、学生の希望が通りやすい状況となっていることがうかがえる。

また、「志望する会社から内定をもらったから」（59.1%）が群を抜いて高い満足理由である。

逆に不満足理由は、「体力的にも精神的にも辛かったから」（46.4%）、「就活でお金がかかったから」（43.2%）、「志望する会社から内定をもらっていないから」（39.2%）が上位にあがった。

就職活動は「想定より楽だったかそれとも厳しかったか」の感想を尋ねた。「想定通り楽だった」（10.9%）と「想定より楽だった」（34.2%）を合わせると45.1%で、前年同月調査の50.5%からは減少している。

一方「想定通り厳しかった」（36.0%）と「想定より厳しかった」（17.3%）の合計は53.3%で、前年を4.9%上回っており、前質問の満足度の高さと比べると、結果に満足しながらも活動は「厳しい」と感じていた学生も多かったことが推察される。

社会人になることへの不安事は、「仕事がやっていけるか」（66.9%）と「会社での人間関係、付き合い」（63.3%）が上位2項目である。

- 今回の調査(2018年3月)は、2018年3月卒業見込みで「就職活動を終了した」または「就職活動中」の大学4年生と大学院2年生を対象とした。
- 回答者の属性を以下に示した。これまでに実施され4時点のいずれの調査と比べても各属性構成に差はなくサンプルの偏りはない。
- 卒業後の進路は、就職が90.7%(民間企業71.6%、公務員系19.1%)、未だ就職活動の継続者は3.1%である。

表. 性別

	n	男性	女性
全体 (18年3月)	550	48.7	51.3
全体 (17年6月)	550	49.1	50.9
全体 (17年3月)	551	49.0	51.0
全体 (16年3月)	547	48.8	51.2

表. 学年

	n	大学4年生	大学院2年生
全体 (18年3月)	550	77.8	22.2
全体 (17年6月)	550	77.6	22.4
全体 (17年3月)	551	77.5	22.5
全体 (16年3月)	547	77.9	22.1

表. 国公立

	n	国立	公立	私立
全体 (18年3月)	550	30.9	9.6	59.5
全体 (17年6月)	550	32.5	8.0	59.5
全体 (17年3月)	551	33.6	7.1	59.3
全体 (16年3月)	547	31.8	7.7	60.5

表. 専攻

	n	文系	理系	その他
全体 (18年3月)	550	60.7	38.4	0.9
全体 (17年6月)	550	61.1	38.4	0.5
全体 (17年3月)	551	61.0	38.5	0.5
全体 (16年3月)	547	61.1	37.1	1.8

表. 学校の所在地

	n	東京圏	大阪圏	名古屋圏	その他
全体 (18年3月)	550	37.3	19.8	8.0	34.9
全体 (17年6月)	550	36.9	20.2	8.0	34.9
全体 (17年3月)	551	36.5	20.1	8.0	35.4
全体 (16年3月)	547	36.9	20.5	8.2	34.4

表. 卒業後の確定進路

	n	民間企業で働く	教員、公務員、団体職員として働く	進学する	留学する	起業する	就職活動を継続する	その他
全体 (18年3月)	550	71.6	19.1	2.7	1.6	0.2	3.1	1.6
全体 (17年3月)	551	73.9	16.7	2.5	0.9	0.2	4.2	1.6
全体 (16年3月)	547	71.7	17.4	2.7	1.1	0.7	5.5	0.9

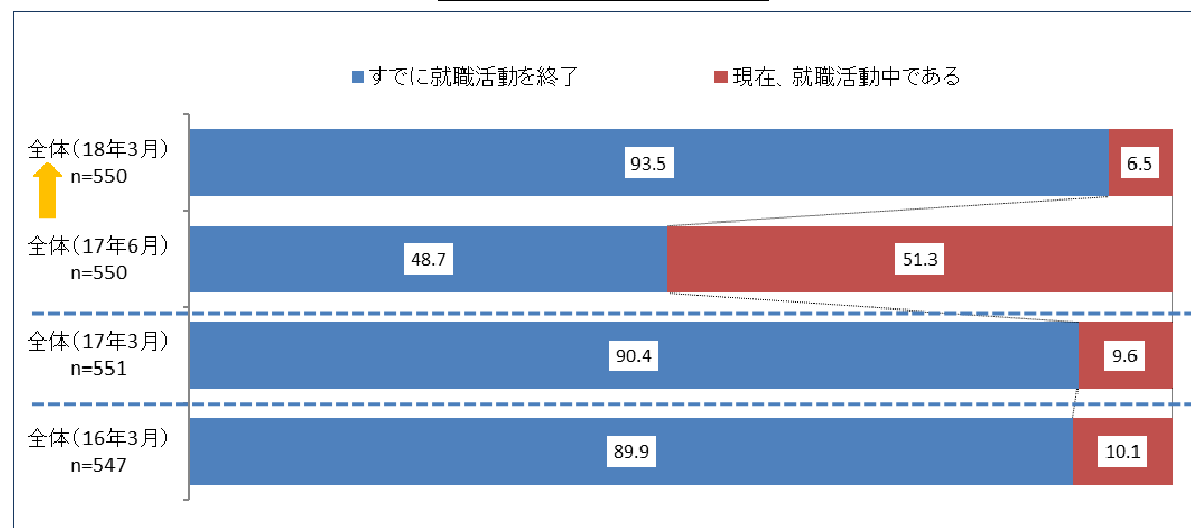
表. 進路先での雇用形態

	n	正社員・正職員	契約社員	嘱託社員	アルバイト	その他
全体 (18年3月)	526	92.0	4.6	1.5	1.1	0.8
全体 (17年3月)	532	91.5	3.9	0.4	3.0	1.1
全体 (16年3月)	526	91.6	3.6	1.5	2.3	1.0

就職活動の現況【2018年3月・2017年6月調査】

- 卒業間際の今回(2018年3月)調査時点での「就職活動終了者」は全体で93.5%であり、前年より3.1%増加した。
- 2017年6月の調査時点で、すでに就職活動を終えた学生が48.7%出現した。

図・表. 就職活動の現況(%)

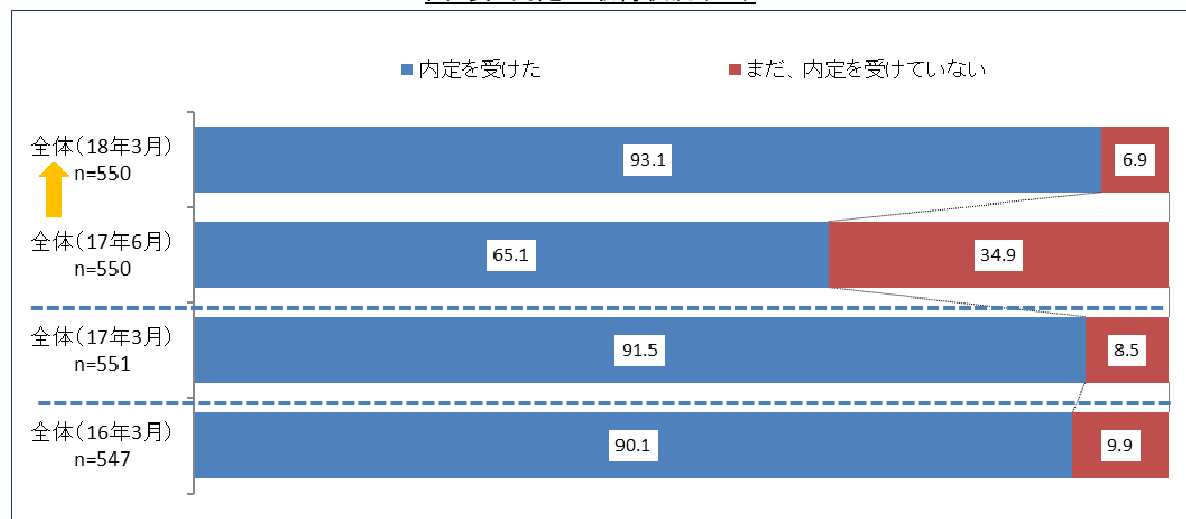


	n	すでに就職活動を終了	現在、就職活動中である
【18年3月】			
男性	268	89.6	10.4
女性	282	97.2	2.8
大学4年生	428	93.0	7.0
大学院2年生	122	95.1	4.9
男性×大学4年生	189	87.8	12.2
男性×大学院2年生	79	93.7	6.3
女性×大学4年生	239	97.1	2.9
女性×大学院2年生	43	97.7	2.3
文系	334	94.3	5.7
理系	211	91.9	8.1

(1) 内定取得率 【2018年3月・2017年6月調査】

- 今回(2018年3月)調査時点での「内定取得者」は全体で93.1%であった(2017年6月時点65.1%)。
- 男性88.1%、女性97.9%で、前年に続いて女性が男性を上回った。

図・表. 内定の取得状況(%)



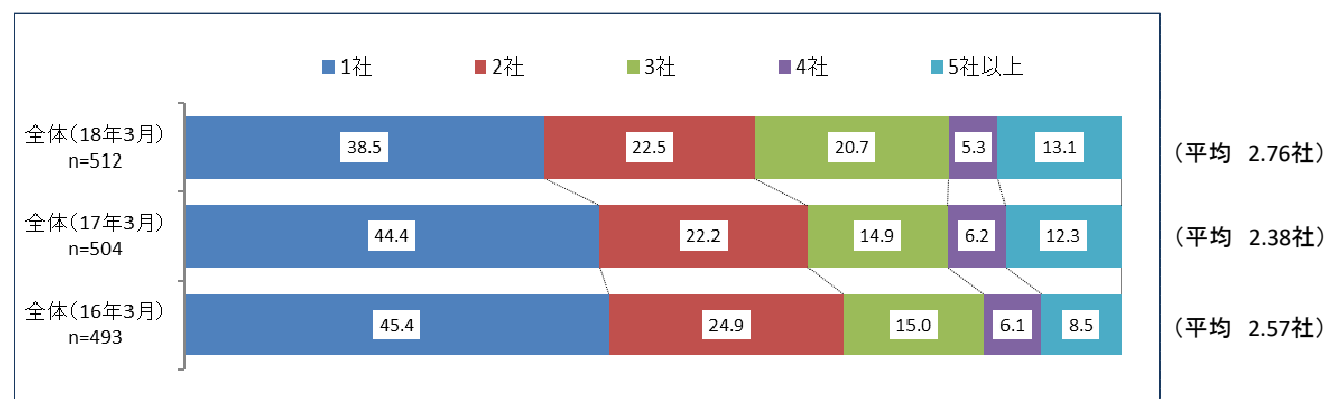
	n	内定を受けた	まだ、内定を受けていない
【18年3月】			
男性	268	88.1	11.9
女性	282	97.9	2.1
大学4年生	428	92.8	7.2
大学院2年生	122	94.3	5.7
男性×大学4年生	189	86.2	13.8
男性×大学院2年生	79	92.4	7.6
女性×大学4年生	239	97.9	2.1
女性×大学院2年生	43	97.7	2.3
文系	334	94.6	5.4
理系	211	90.5	9.5

(2) 内定取得社数【2018年3月調査】

◆ 内定取得者における内定取得社数の分布をみた。

➤ 全体では1社が38.5%と最も多いが、16年・17年と比較しても2社以上の複数社から内定を取得する人が増え、平均取得社数は2.76社であった。

図・表. 内定取得社数(%)

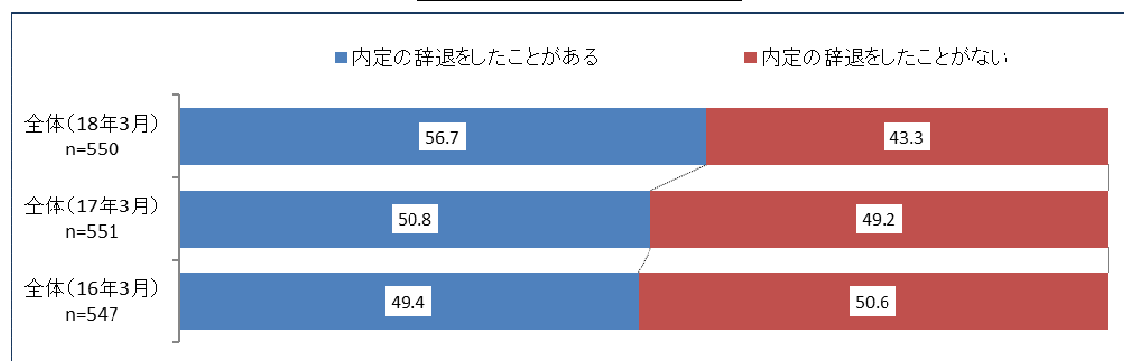


【18年3月】	n	1社	2社	3社	4社	5社以上	平均社数
男性	236	38.1	20.8	21.2	5.9	14.0	2.9
女性	276	38.8	23.9	20.3	4.7	12.3	2.7
大学4年生	397	36.3	23.2	20.2	6.0	14.4	2.8
大学院2年生	115	46.1	20.0	22.6	2.6	8.7	2.5
男性×大学4年生	163	34.4	21.5	19.6	6.7	17.8	3.0
男性×大学院2年生	73	46.6	19.2	24.7	4.1	5.5	2.6
女性×大学4年生	234	37.6	24.4	20.5	5.6	12.0	2.7
女性×大学院2年生	42	45.2	21.4	19.0	—	14.3	2.3
文系	316	35.4	22.2	19.9	6.3	16.1	3.0
理系	191	42.9	23.6	22.0	3.7	7.9	2.4

(3) 内定辞退の有無【2018年3月調査】

- ◆ 内定を受けながら辞退したことがあるか否かを尋ねた。
- 内定辞退経験者は全体で56.7%であった。前年から5.9%増加した。
- 特に文系の大学4年生では62.9%と高い辞退率となっている。

図・表. 内定辞退の有無(%)



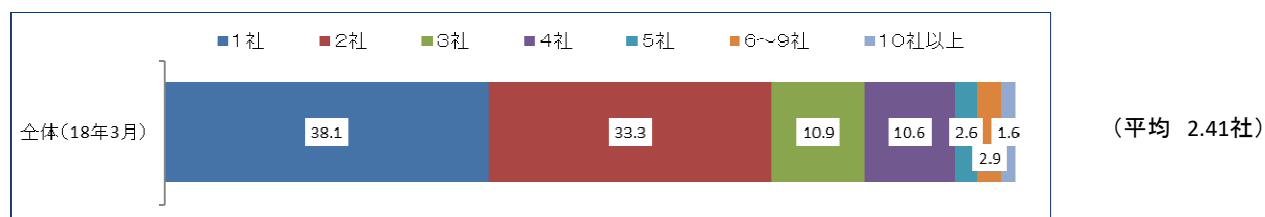
【18年3月】	n	内定の辞退をしたことがある	内定の辞退をしたことがない
男性	268	56.7	43.3
女性	282	56.7	43.3
大学4年生	428	59.1	40.9
大学院2年生	122	48.4	51.6
男性×大学4年生	189	59.8	40.2
男性×大学院2年生	79	49.4	50.6
女性×大学4年生	239	58.6	41.4
女性×大学院2年生	43	46.5	53.5
文系	334	61.1	38.9
理系	211	50.2	49.8
文系×大学4年生	313	62.9	37.1
文系×大学院2年生	21	33.3	66.7
理系×大学4年生	110	49.1	50.9
理系×大学院2年生	101	51.5	48.5

(4) 内定辞退数【2018年3月調査】

◆ 内定辞退者312人に辞退数を尋ねた。

- 内定辞退経験者の辞退社数は1社が38.1%、2社が33.3%と1社または2社で7割を超えているが、3割程度の学生が3社以上内定を辞退している。
- 平均辞退社数は2.41社である。

図. 内定辞退数(%)



【18年3月】	n	1社	2社	3社	4社	5社	6～9社	10社以上	平均社数
男性	152	36.2	31.6	11.2	11.2	3.3	3.9	2.6	2.74
女性	160	40.0	35.0	10.6	10.0	1.9	1.9	0.6	2.10
大学4年生	253	37.5	32.8	11.1	11.5	2.8	2.4	2.0	2.48
大学院2年生	59	40.7	35.6	10.2	6.8	1.7	5.1	—	2.12
文系	204	36.8	31.9	11.8	11.3	3.4	2.5	2.5	2.59
理系	106	40.6	35.8	9.4	9.4	0.9	3.8	—	2.08

(5) 内定辞退時期【2018年3月調査】

◆ 内定辞退者(312人)に辞退した時期を尋ねた。

- 内定辞退時期のピークは、7～9月(44.9%)である。
- しかし、選考活動開始前(2017年5月以前)の内定辞退率は34.8%にも及び、早期に選考活動が始まっていたことをうかがわせている。

図・表. 内定辞退時期2018年3月(%)

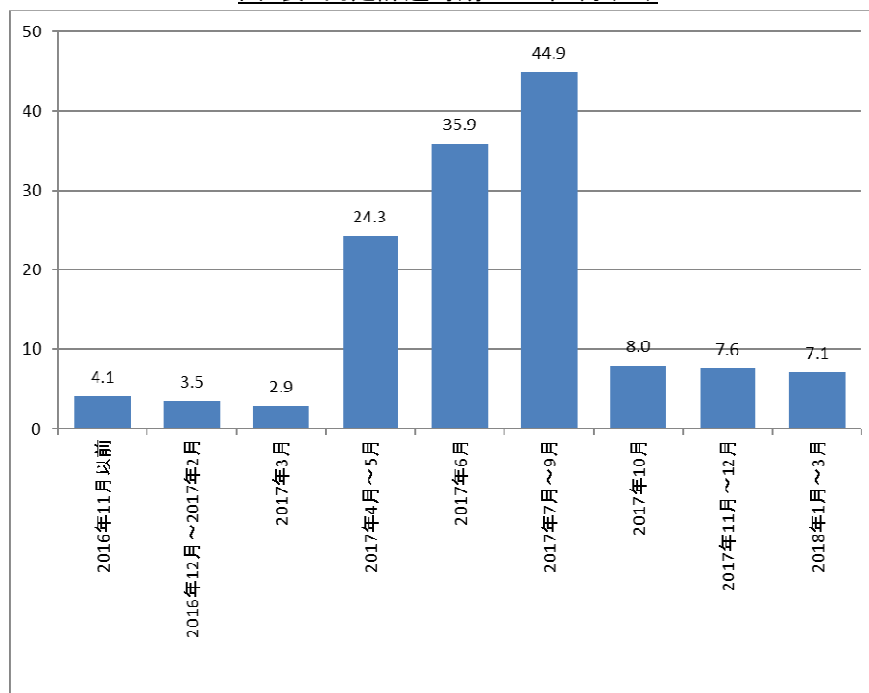


図. (参考)内定辞退時期2017年3月(%)

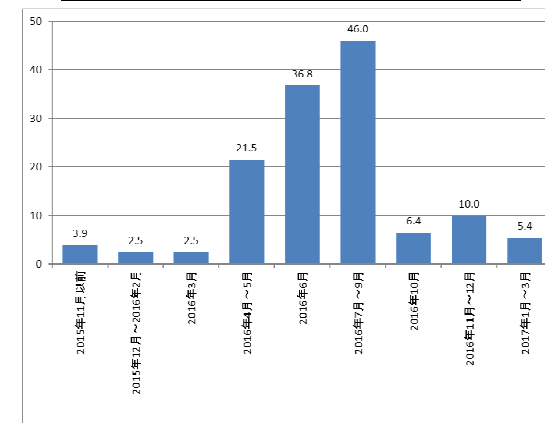
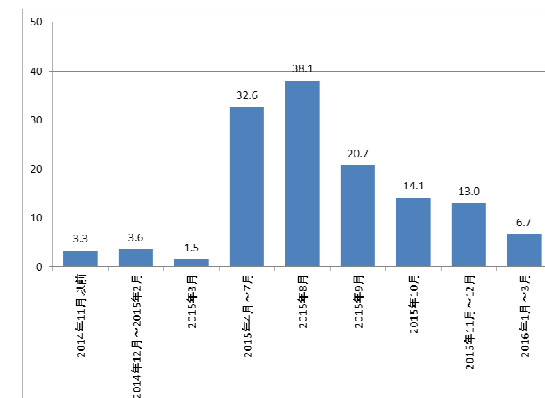


図. (参考)内定辞退時期2016年3月(%)

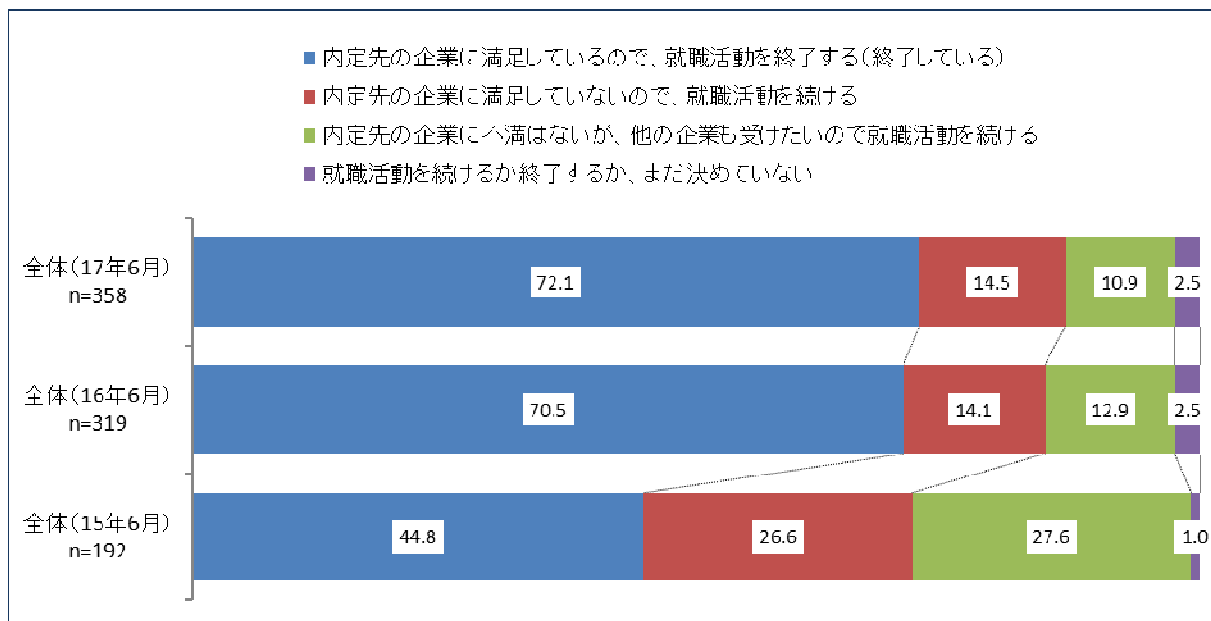


2017年度就職活動の日程→→→	2016年11月以前	2016年12月～2017年2月	説明会解禁	2017年4月～5月	選考活動解禁	2017年7月～9月	内定式	2017年11月～12月	2018年1月～3月	
全体（18年3月）	312	4.1	3.5	2.9	24.3	35.9	44.9	8.0	7.6	7.1
男性	152	5.9	5.3	5.3	23.1	34.9	46.1	7.2	7.9	7.2
女性	160	2.5	1.9	0.6	25.6	36.9	43.8	8.8	7.5	6.9
大学4年生	253	4.0	4.0	2.4	23.7	37.9	45.5	8.3	8.7	7.2
大学院2年生	59	5.1	1.7	5.1	27.2	27.1	42.3	6.8	3.4	6.8
文系	204	4.9	4.0	2.0	24.0	37.3	48.6	7.4	9.8	7.8
理系	106	2.8	2.8	4.7	24.5	33.0	37.8	9.4	3.8	5.6

参照① 内定取得後の就職活動の継続【2017年6月調査】

- ◆ 6月時点の内定取得者に内定獲得後も就職活動を継続しているか否かを聞いた。
- 全体では「内定先の企業に満足しているので、就職活動を終了する(終了している)」が72.1%に上り、2/3以上の学生が、6月時点で内定を得たことによって就職活動を終了している(2016年6月調査時点でも70.5%に達している)。
- 2015年度は、8月選考開始だったため、6月時点では終了した人は半分に満たなかった。

図. 内定取得後の就職活動の継続(%)



参照② 企業側からの内定の通知方法と学生側からの承諾方法【2017年6月調査】

- 企業側の学生に対する内定の通知方法で最も多いのは「電話」60.9%、次いで「文書」33.2%、「メール」29.9%「会社で口頭で聞いた」19.6%、の順である。
- 文書での通知が減り、電話・メールが増加している。
- 一方、学生側からの企業に対する内定の承諾方法で最も多いのは「文書」42.5%、次いで「電話」40.8%、「会社で口頭で返答」17.3%、の順である。
- 前年と大きく傾向は変わっていない。

図. 企業側からの内定の通知方法(%)

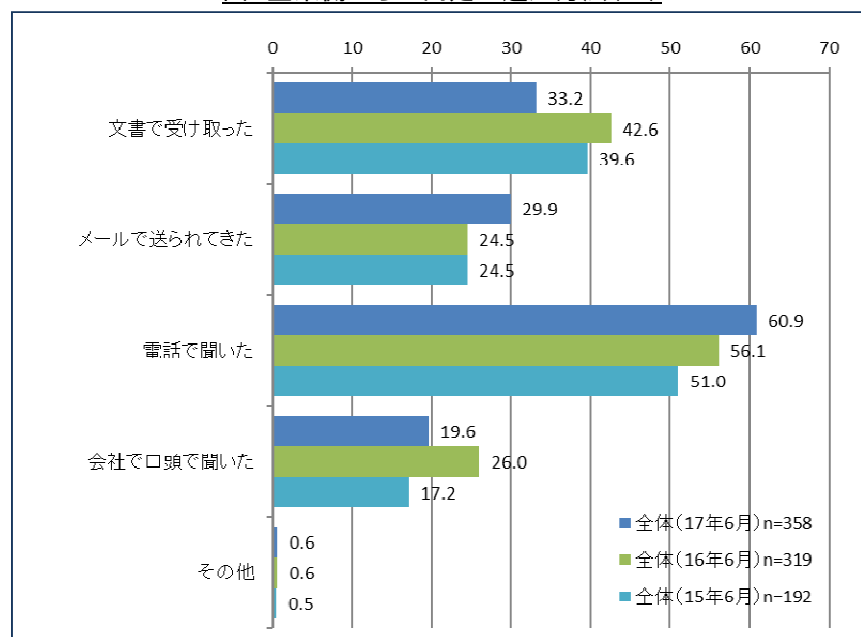
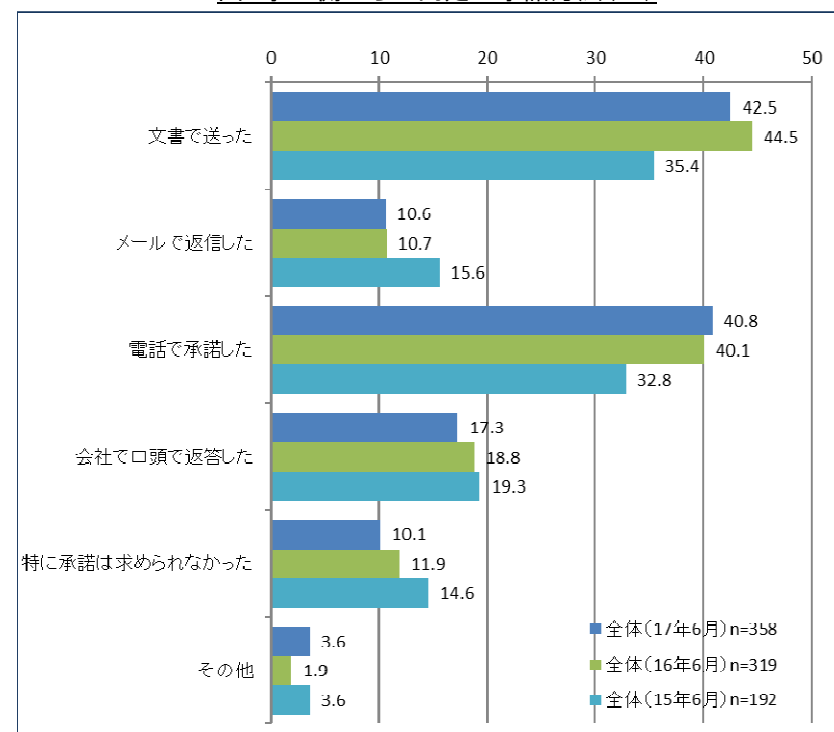


図. 学生側からの内定の承諾方法(%)

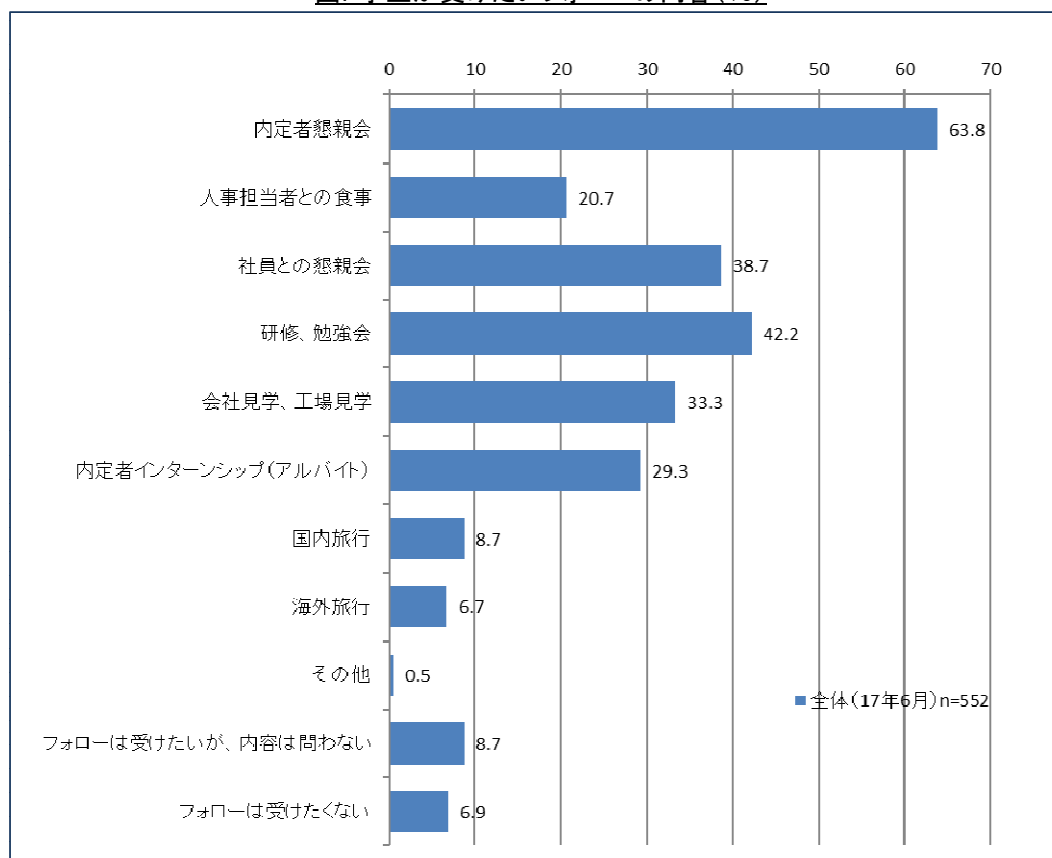


参照③ 学生が受けたいフォローの内容【2017年6月調査】

◆ 内定取得後、どのような内容のフォローを受けたいかを学生に尋ねた。

➤ 「内定者懇親会」63.8%が群を抜いて高く、次いで「研修、勉強会」42.2%、「社員との懇親会」38.7%、「会社見学、工場見学」33.3%と続く。

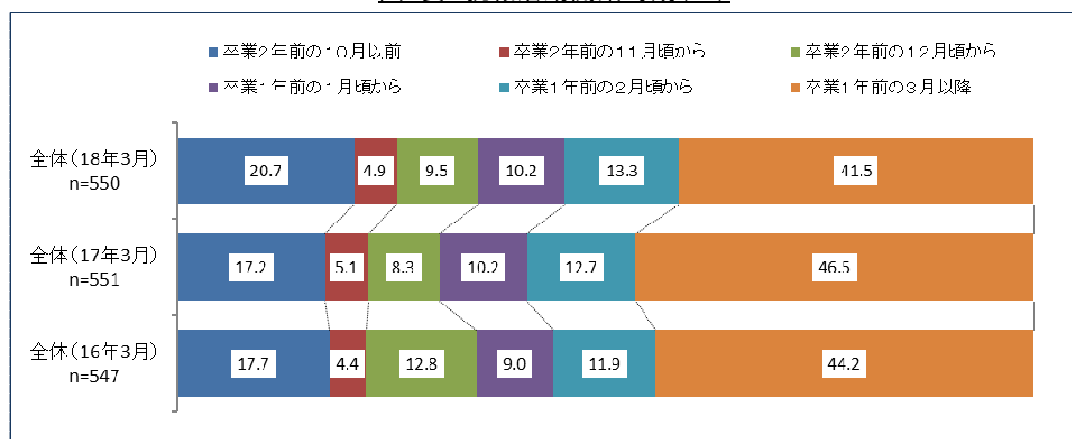
図. 学生が受けたいフォローの内容(%)



(1) 就職活動開始時期【2018年3月調査】

- 2017年3月の説明会解禁日以降から就職活動を開始した学生は全体の41.5%である。
- 一方で、解禁前の2月以前から活動を開始していた学生は累計すると58.6%と半数以上に上り、多くの学生が解禁前には動いていた現状がうかがえる。
- 女性、大学院2年生、理系学生は、開始時期が遅い傾向にある。

図・表. 就職活動開始時期(%)

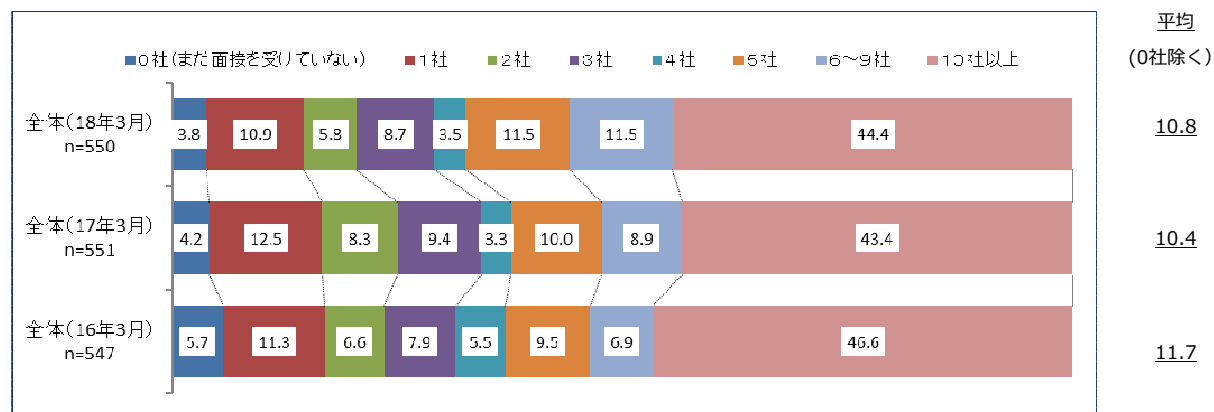


【18年3月】		2016年10月以前	2016年11月頃から	2016年12月頃から	2017年1月頃から	2017年2月頃から	2017年3月以降
性別	n						
男性	268	21.6	6.7	9.7	10.1	13.4	38.4
女性	282	19.9	3.2	9.2	10.3	13.1	44.3
大学4年生	428	21.5	4.9	9.6	10.0	14.5	39.5
大学院2年生	122	18.0	4.9	9.0	10.7	9.0	48.4
文系	334	23.4	4.8	9.0	10.8	12.9	39.2
理系	211	16.1	5.2	9.0	9.5	14.2	46.0

(2) 面接 ①面接社数【2018年3月調査】

- 平均面接社数は約10.8社である(ベース:1社以上面接した就活生)。前年とほぼ同様の結果であった。
- 面接社数の分布をみると、1～3社(25.4%)、4～5社(15.0%)、6～9社(11.5%)と9社以下が51.9%、10社以上が44.4%であった。
- 一方、3月時点で「未だ面接を受けていない(面接社0社)」は、全体で3.8%である。
- 大学院2年生に比べ大学4年生の、理系学生に比べ文系学生の平均面接社数が多い。

図・表. 面接社数(%)



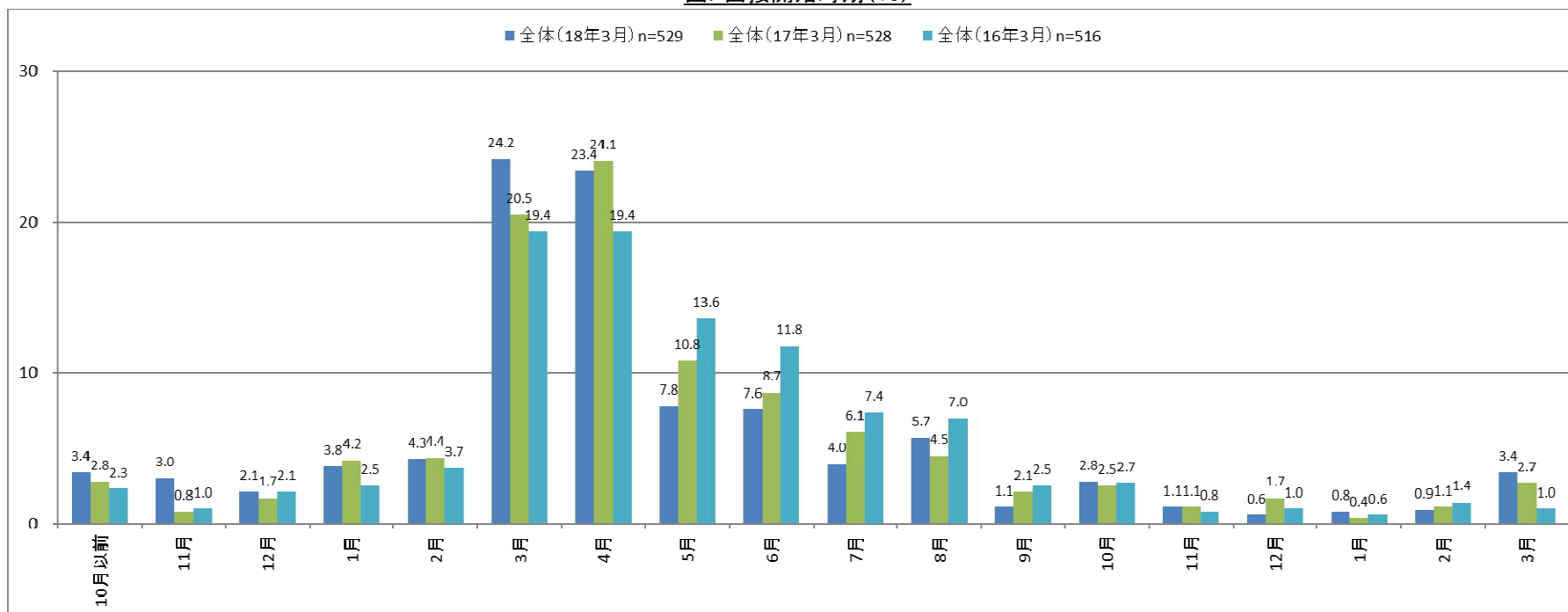
【18年3月】	n	0社	1社	2社	3社	4社	5社	6～9社	10社以上	平均 (0社除く)
男性	268	7.1	6.7	4.1	9.7	4.9	13.1	11.2	43.3	11.6
女性	282	0.7	14.9	7.4	7.8	2.1	9.9	11.7	45.4	10.1
大学4年生	428	3.0	10.3	5.1	7.5	3.3	11.0	11.9	47.9	11.6
大学院2年生	122	6.6	13.1	8.2	13.1	4.1	13.1	9.8	32.0	8.0
文系	334	3.9	8.4	3.3	5.4	2.4	10.5	12.0	54.2	12.6
理系	211	3.8	15.2	10.0	14.2	5.2	12.8	10.9	28.0	7.9

(2) 面接 ②面接開始時期【2018年3月調査】

◆ 1社以上面接を受けた学生(529人)に面接開始時期を尋ねた。

➤ 面接開始のピークは選考活動解禁前の3月～5月(55.4%)であり、更に2016年から2017年5月までの選考活動解禁前に面接を開始した学生は72.0%にも上っている。

図. 面接開始時期(%)



(2) 面接 ③面接時の企業の対応－良い点と悪い点【2018年3月調査】

◆ 面接を1社以上受けたことのある学生(529人)に、企業(面接官)の印象を良い点と悪い点の両面から尋ねた。

- 良い印象項目は「表情が穏やかで笑顔で対応」(52.6%)、「話をじっくり聞いてくれる聞き上手である」(50.5%)、「威圧的でなく学生目線で話す」(49.5%)が前年に引き続き高評価項目である。
- 悪い印象項目は、「無気力で冷めた感じ」(33.1%)、「威圧的で学生の立場を考えない」(30.6%)、「表情が乏しく笑顔で対応しない」(27.8%)などが前年同様悪い評価項目の上位に挙がっている。
- 「内定承諾を強要し、就職活動を終わるように迫られた」(通称オワハラ)は13.6%で前年よりやや上昇している。
- 尚、特に悪い印象は持たなかった学生は28.7%である。

図. 面接時の企業の対応－良い点(%)

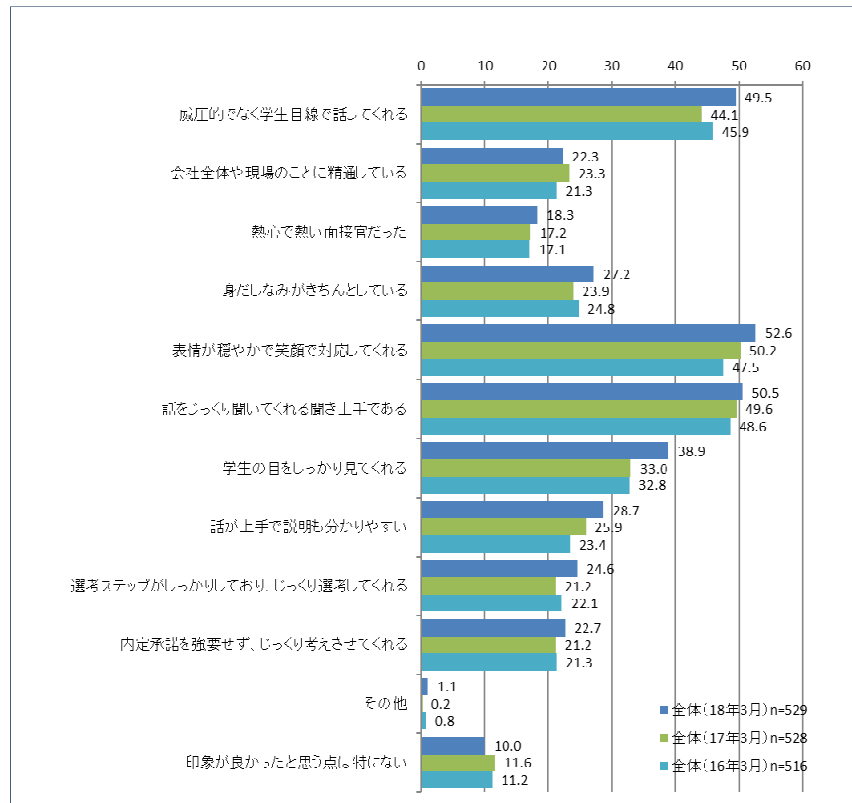
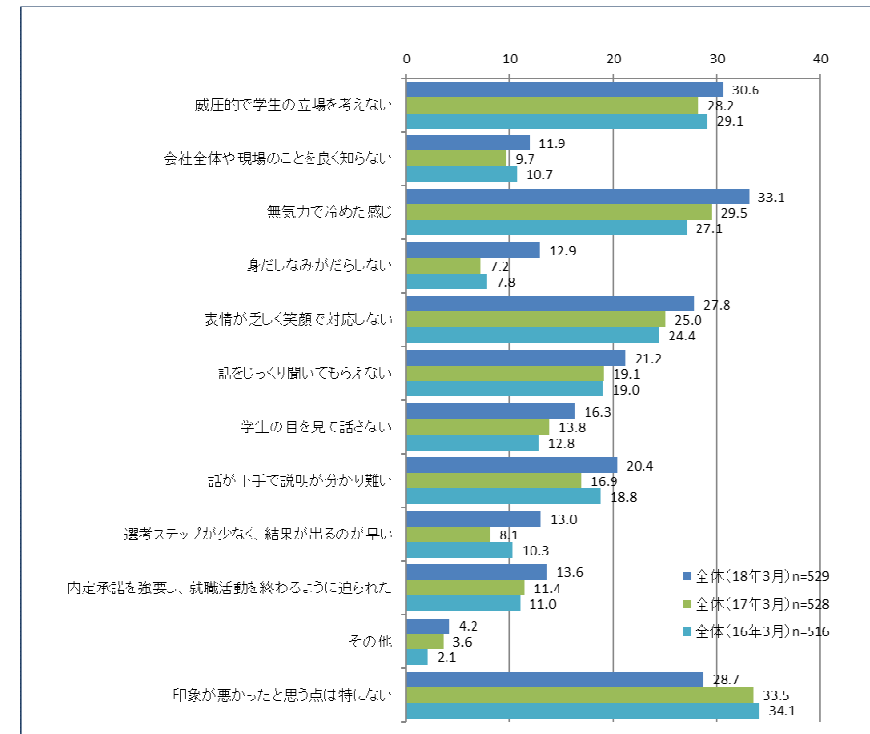


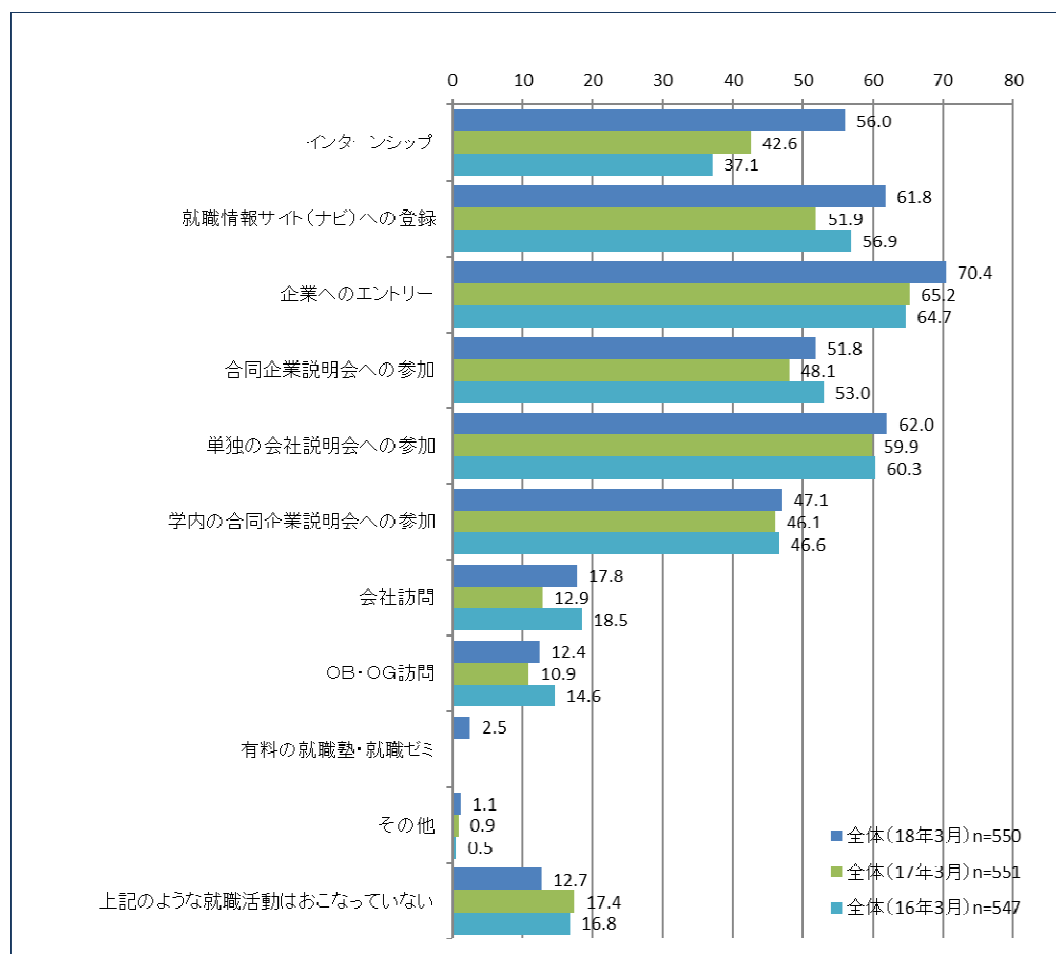
図. 面接時の企業の対応－悪い点(%)



(1) 就職活動種類別参加率【2018年3月調査】

- 「企業へのエントリー」(70.4%)、「単独の会社説明会への参加」(62.0%)、「就職情報サイト(ナビ)への登録」(61.8%)が60%超えの就職活動である。
- 昨今注目されている「インターンシップ」への参加率は56.0%で前年より13.4%上回った。

図. 就職活動種類別参加率(%)

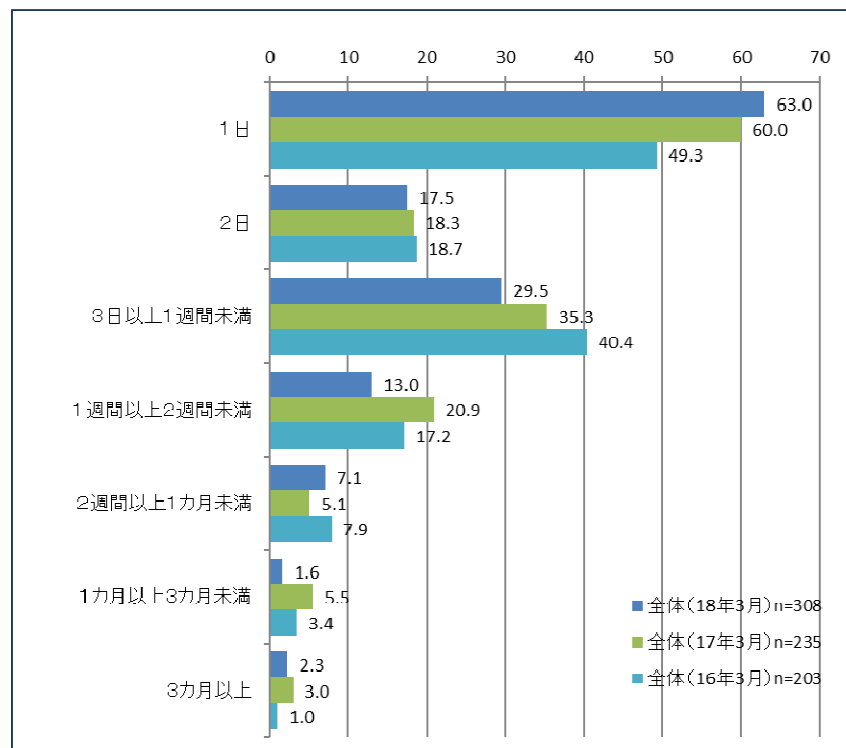


【2018年3月】	【2017年3月】	【2016年3月】
平均	平均	平均
3.9社	3.4社	2.9社
29.0社	32.0社	33.9社
4.7回	5.3回	4.6回
15.7回	16.9回	16.5回
4.7回	4.3回	4.9回
7.5社	7.3社	6.4社
3.4社	2.7社	2.5社

(2) インターンシップ ①参加したインターンシップの期間【2018年3月調査】

- インターンシップ参加期間は、「1日」(63.0%)が最も多く、企業側のワンデーインターンシップ導入傾向が続いた結果となっている。
- 次いで「3日以上1週間未満」(29.5%)、「1週間以上2週間未満」(13%)であり、1カ月以上の長期型は3.9%で、前年、前々年に比べインターンシップ期間の短縮化がうかがえる。
- また「1日」の参加は、男性よりも女性の方が多くなっている。

図・表. 参加したインターンシップの期間(%)



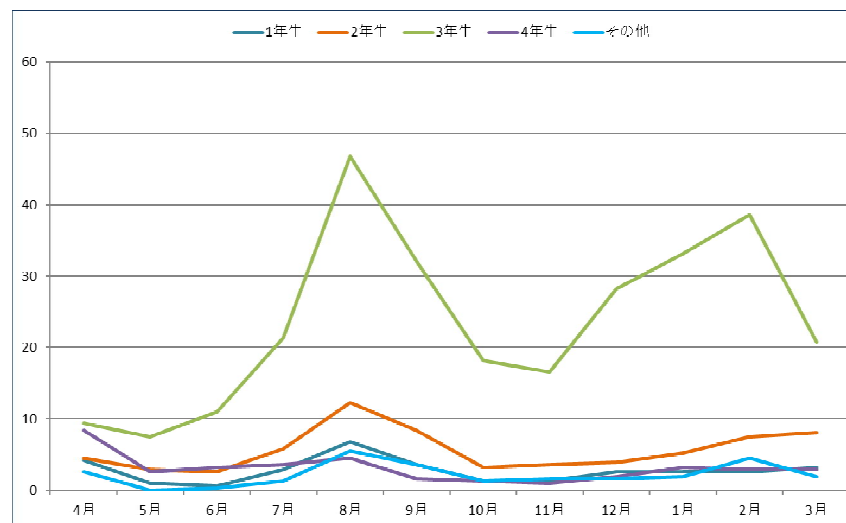
【18年3月】	男性	女性
n	151	157
1日	57.6	68.2
2日	18.5	16.6
3日以上1週間未満	37.1	22.3
1週間以上2週間未満	16.6	9.6
2週間以上1カ月未満	6.0	8.3
1カ月以上3カ月未満	1.3	1.9
3カ月以上	2.6	1.9

(2) インターンシップ ②インターンシップ参加時期【2018年3月調査】

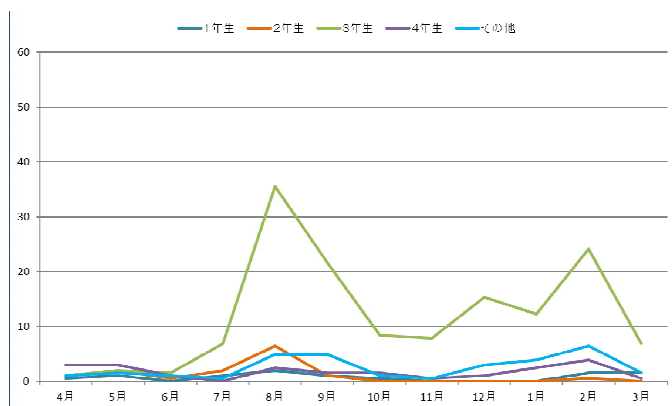
◆ インターンシップへの参加時期(学年と月)を下图に示した。

➤ 参加が多いのは3年生時の8月と2月であるが、前年に比べて、8月に集中しておらず、12月～1月にも分散している。

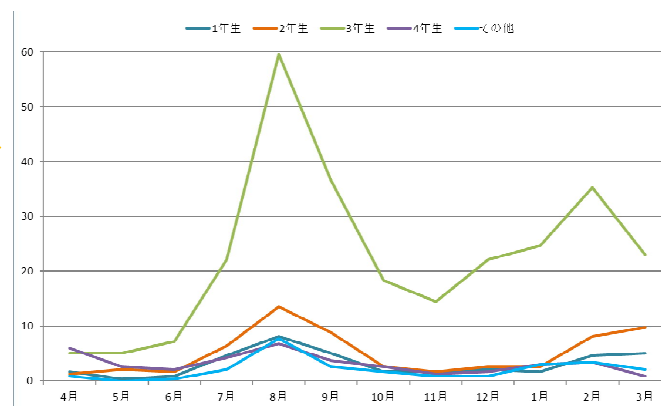
図. インターンシップ参加時期(%) <2018年>



<2016年>



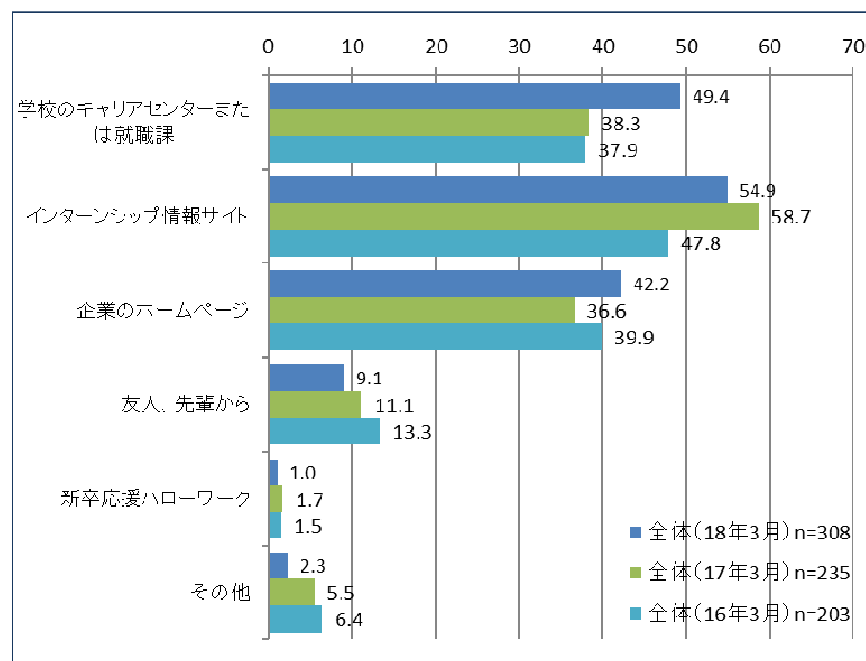
<2017年>



(2) インターンシップ ③インターンシップ情報の入手先【2018年3月調査】

- 54.9%の学生はインターンシップ情報を「インターンシップ情報サイト」から得ている。
- 「キャリアセンター、就職課」からが49.4%と前年から11.1%増と大きく増えており、大学側のインターンシップへの積極的な取組みがうかがえる。

図・表. インターンシップ情報の入手先(%)

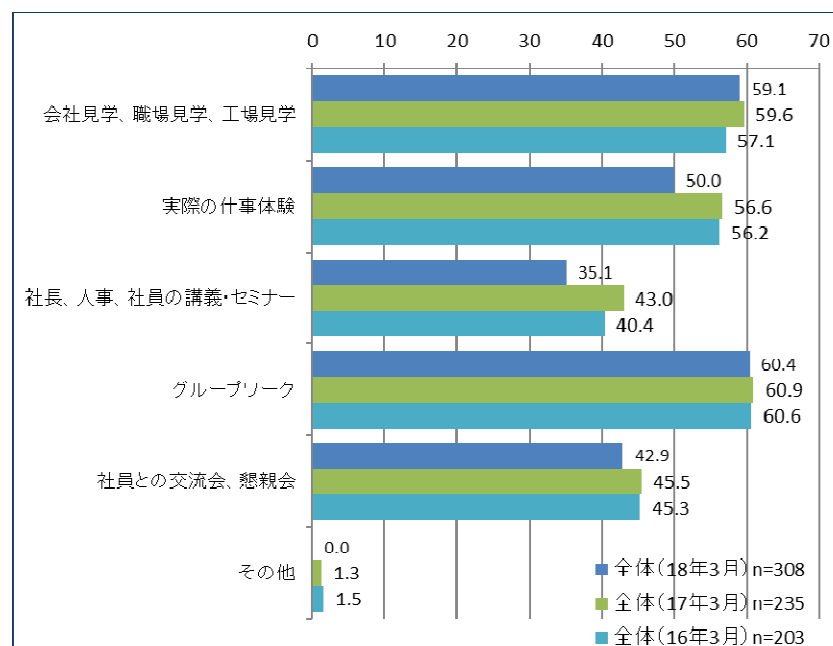


	n	学校のキャリアセンターまたは就職課	インターンシップ情報サイト	企業のホームページ	友人、先輩から	新卒応援ハローワーク	その他
【18年3月】							
男性	151	51.0	53.0	42.4	9.9	1.3	2.0
女性	157	47.8	56.7	42.0	8.3	0.6	2.5
大学4年生	243	51.0	54.7	41.2	7.8	0.8	2.5
大学院2年生	65	43.1	55.4	46.2	13.8	1.5	1.5
文系	195	50.3	57.4	41.0	9.2	1.0	1.5
理系	109	48.6	50.5	44.0	9.2	0.9	3.7

(2) インターンシップ ④参加したインターンシップの内容【2018年3月調査】

- インターンシップの内容では、「グループワーク」が最も多く(60.4%)、次いで「会社見学、職場見学、工場見学」(59.1%)「実際の仕事体験」(50.0%)である。
- 就業体験を伴わないワンデーインターンシップの見直しを提言した前年6月の政府発表や、現状のワンデーインターンシップを本来のインターンシップとは分離すべきと提言した前年11月の私大連の発表を受け、今後の動向が注目される。
- 女性、大学4年生、文系学生は「グループワーク」が最も多く、男性、大学院2年生、理系学生は「会社見学、職場見学、工場見学」が多い。

図・表. 参加したインターンシップの内容(%)



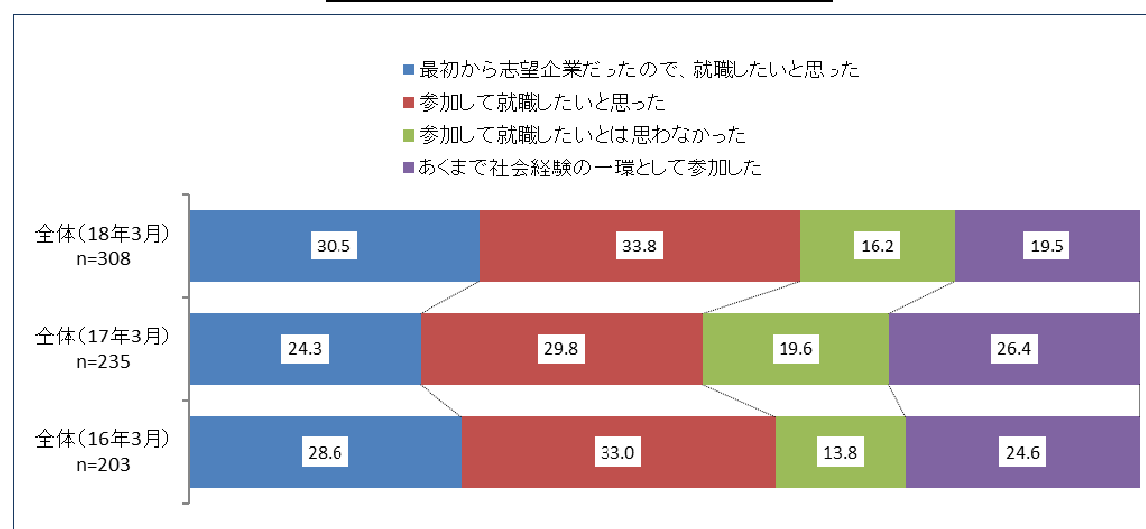
	n	会社見学、 職場見学、 工場見学	実際の仕事 体験	社長、人 事、社員の 講義・セミ ナー	グループ ワーク	社員との交 流会、懇親 会	その他
【18年3月】							
男性	151	62.3	51.7	33.8	57.6	39.7	-
女性	157	56.1	48.4	36.3	63.1	45.9	-
大学4年生	243	56.8	46.9	36.2	62.6	41.6	-
大学院2年生	65	67.7	61.5	30.8	52.3	47.7	-
文系	195	58.5	47.7	40.5	70.3	46.2	-
理系	109	62.4	56.0	26.6	41.3	37.6	-

(2) インターンシップ ⑤インターンシップ参加企業の印象【2018年3月調査】

◆ インターンシップ参加企業(複数社ある場合はメインの1社)への就職意向を聞いた。

- インターンシップに参加したことによって、当該企業への就職意向が醸成された割合は33.8%である(インターンシップ効果)。これはほとんどの属性で最も多かった。
- また、「最初から志望企業だったので、就職したいと思った」学生は、全体で30.5%である。

図・表. インターンシップ参加企業の印象(%)

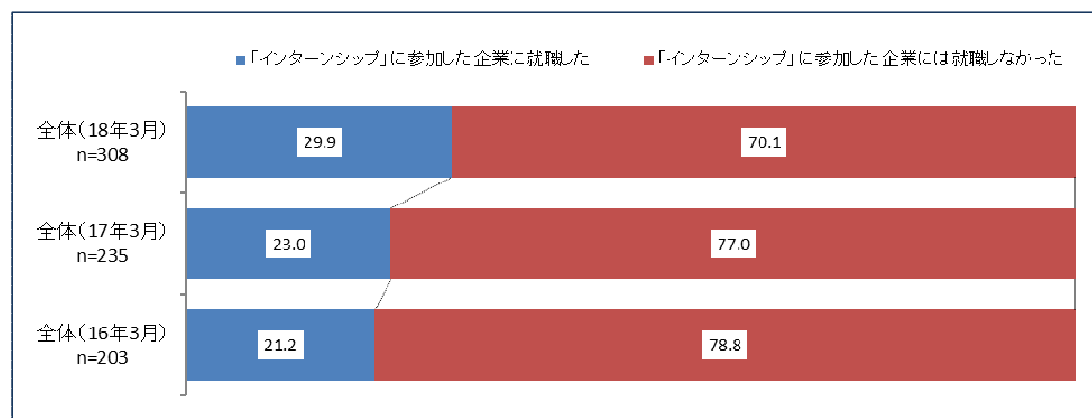


	n	最初から志望企業だったので、就職したいと思った	参加して就職したいと思った	参加して就職したいとは思わなかった	あくまで社会経験の一環として参加した
【18年3月】					
男性	151	26.5	35.1	12.6	25.8
女性	157	34.4	32.5	19.7	13.4
大学4年生	243	29.6	32.9	17.3	20.2
大学院2年生	65	33.8	36.9	12.3	16.9
文系	195	30.8	32.8	16.9	19.5
理系	109	31.2	35.8	13.8	19.3

(2) インターンシップ ⑥インターシップ参加企業への就職【2018年3月調査】

- インターンシップ参加学生(308人)の内、実際に参加した企業に就職したのは29.9%であった。
- 中でも女性、大学院2年生や理系学生では、3割以上が参加した企業に就職している。

図・表. インターシップ参加企業への就職(%)



		就職した	就職しなかつた
【18年3月】			
男性	151	29.1	70.9
女性	157	30.6	69.4
大学4年生	243	28.4	71.6
大学院2年生	65	35.4	64.6
文系	195	26.7	73.3
理系	109	36.7	63.3

(3) 企業へのエントリー・説明会への参加【2018年3月調査】

◆ 企業へのエントリー、合同企業説明会、企業の単独説明会それぞれの参加開始時期の一覧を下表に示した。(各参加者ベース)

- 参加開始時期のピークは説明会解禁月(2017年3月)でいずれも高い参加実績を示しており、中でも「企業へのエントリー」は61.2%に上っている。
- 前年から大きな変動はみられない。

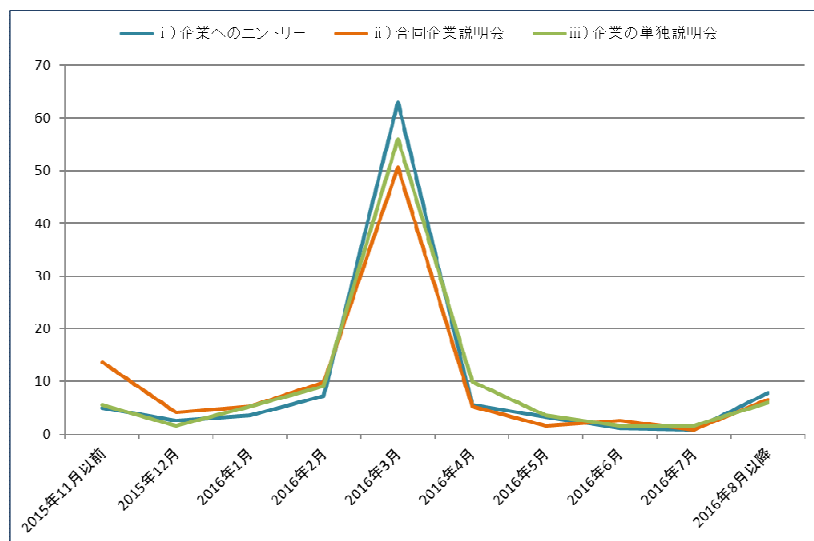
表・図. 参加開始時期一覧(%)

全体 (17年3月)	n	解禁月以前 ~2016年2月	解禁月 2016年3月	解禁月以降 2016年4月~
企業へのエントリー	359	18.3	63.0	18.7
合同企業説明会	265	32.9	50.6	16.7
企業の単独説明会	330	21.3	56.1	22.6

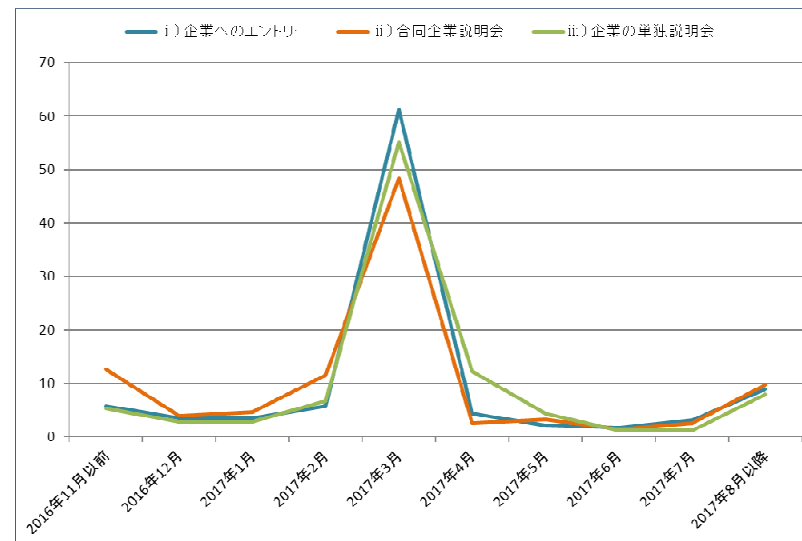


全体 (18年3月)	n	解禁月以前 ~2017年2月	解禁月 2017年3月	解禁月以降 2017年4月~
企業へのエントリー	387	18.6	61.2	20.3
合同企業説明会	285	32.8	48.4	19.3
企業の単独説明会	341	17.8	55.1	27.1

<2017年>



<2018年>



(4) UIターン就職活動【2018年3月調査】

- 前年から8.2 %増の22.2%の学生が「UIターン就活を行った」と答えており、5人に一人の割合となっている。
- 政府の地方創生への取組みによる、各府省庁・地方自治体の様々な移住支援施策が浸透しつつあることがうかがえる。
- また、「UIターン就職をする」学生は、全体の17.6%であった（「UIターン就職活動を行った」学生ベースで79.5%）。

図. UIターン就職活動の有無(%)

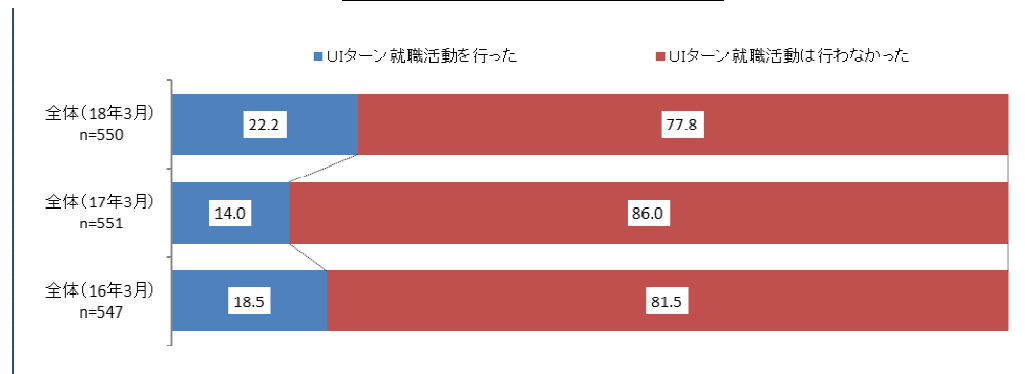
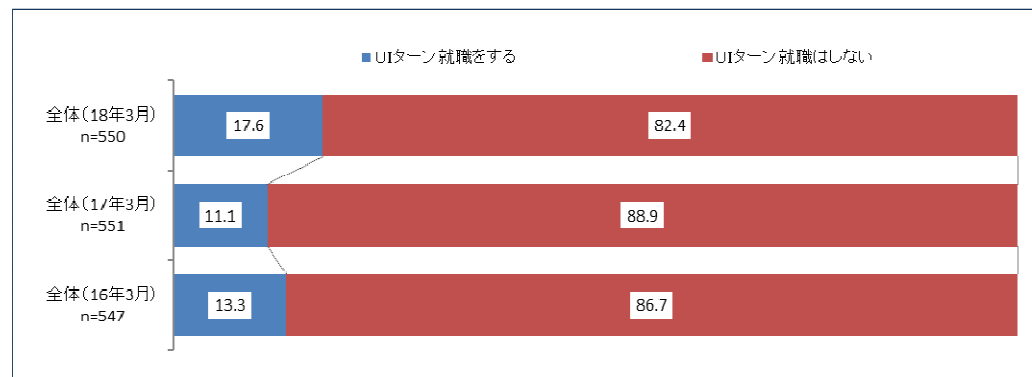


図. UIターンでの就職(%)

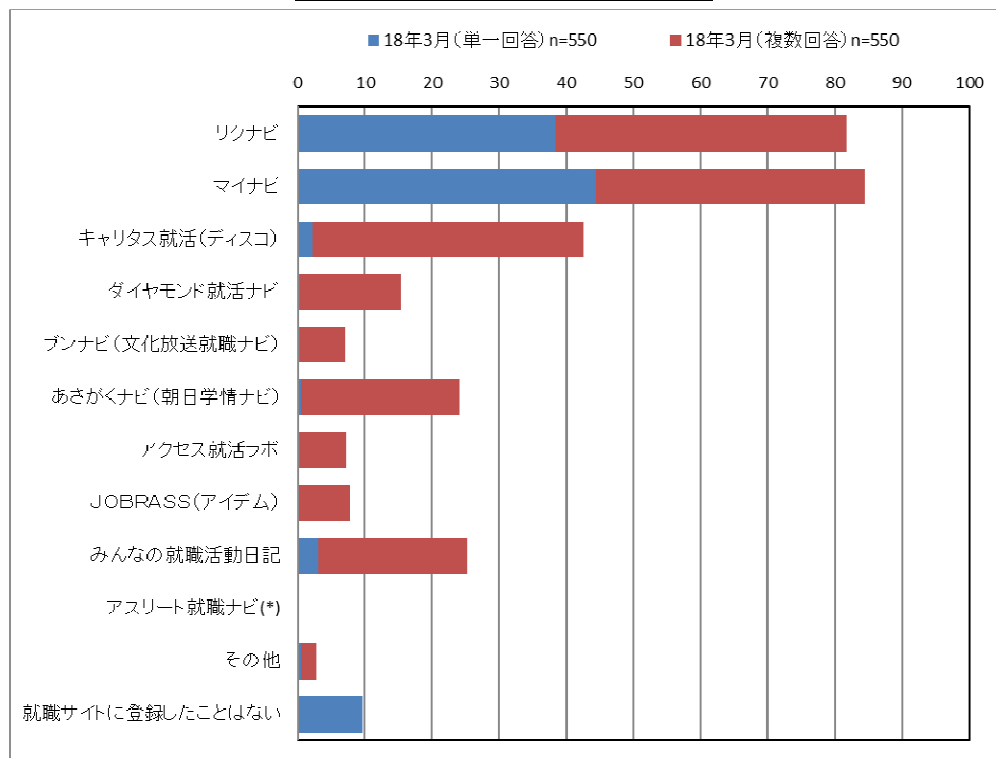


(1) 就職情報サイトへの登録【2018年3月調査】

◆ これまで登録したことのある「就職情報サイト」を尋ねた。

- 登録経験者は90.4%、未登録者は9.6%である。
- サイト別の登録率は「マイナビ」が84.5%、「リクナビ」が81.8%と両サイトはそれぞれ80%超の圧倒的な登録率を誇っている。
- 最もよく利用したサイトは、「マイナビ」44.4%、「リクナビ」38.4%であり、両サイトで82.8%に達する寡占市場を形成している。

図・表. 就職情報サイトへの登録(%)



リクナビ
マイナビ
キャリタス就活(ディスコ)
ダイヤモンド就活ナビ
プンナビ(文化放送就職ナビ)
あさがくナビ(朝日学情ナビ)
アクセス就活ラボ
JOBRASS(アイデム)
みんなの就職活動日記
アスリート就職ナビ
その他
就職サイトに登録したことはない

18年3月全体	
単一回答 n=550	複数回答 n=550
38.4	81.8
44.4	84.5
2.2	42.7
0.4	15.5
0.4	7.1
0.5	24.0
0.4	7.3
0.2	7.8
3.1	25.3
*	*
0.5	2.7
9.6	9.6

*調査項目なし

※参考

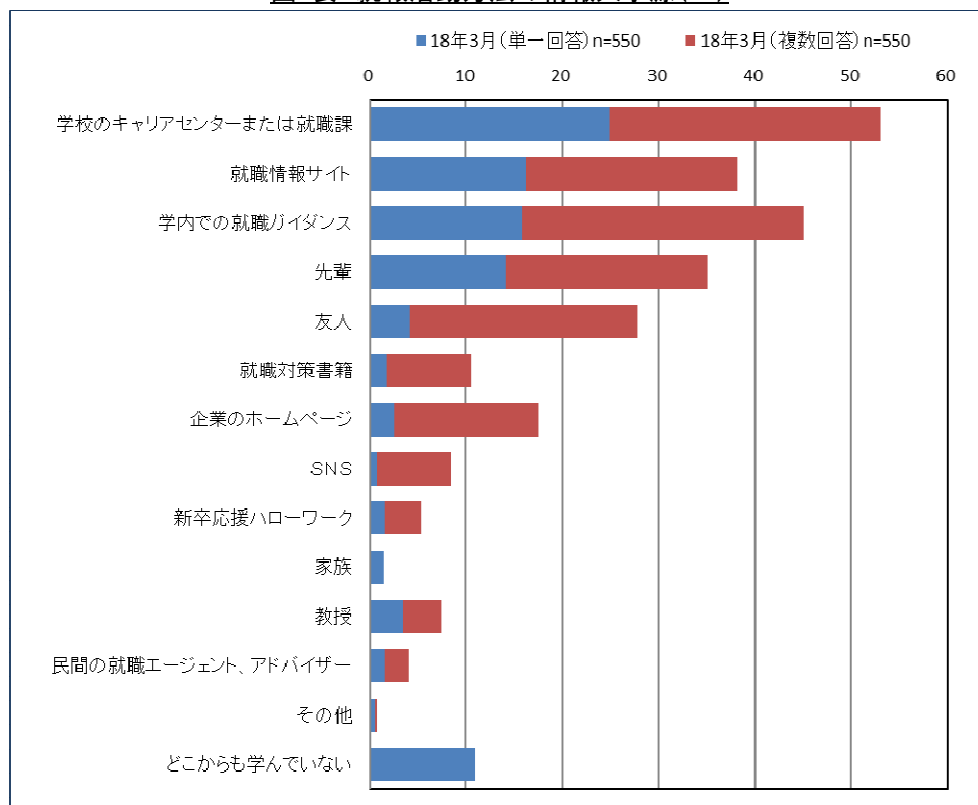
17年3月全体	
単一回答 n=551	複数回答 n=551
39.5	78.8
40.8	77.7
1.8	39.0
0.2	15.2
0.2	7.6
0.5	20.5
0.2	3.8
0.2	9.8
2.2	29.8
0.2	1.6
2.0	3.6
12.2	12.2

(2) 就職活動方法の情報入手源【2018年3月調査】

◆ 就職活動の方法を何から学んだのか(情報入手源)を尋ねた。

- 「学校のキャリアセンターまたは就職課」(53.1%)、「学内での就職ガイダンス」(45.1%)、「就職情報サイト」(38.2%)、が上位情報入手源である。一方、「どこからも学んでいない」は10.9%で前年に比べ減少している。
- その内最も役に立った情報入手源は「学校のキャリアセンターまたは就職課」(24.9%)「就職情報サイト」(16.2%)、「学内での就職ガイダンス」(15.8%)の順でこの3つの情報入手源で全体の半数以上を占めている。

図・表. 就職活動方法の情報入手源(%)



学校のキャリアセンターまたは就職課
就職情報サイト
学内での就職ガイダンス
先輩
友人
就職対策書籍
企業のホームページ
SNS
新卒応援ハローワーク
家族
教授
民間の就職エージェント、アドバイザー
その他
どこからも学んでいない

18年3月全体	
単一回答 n=550	複数回答 n=550
24.9	53.1
16.2	38.2
15.8	45.1
14.2	35.1
4.2	27.8
1.8	10.5
2.5	17.5
0.7	8.4
1.6	5.3
1.5	8.9
3.5	7.6
1.6	4.0
0.5	0.7
10.9	10.9

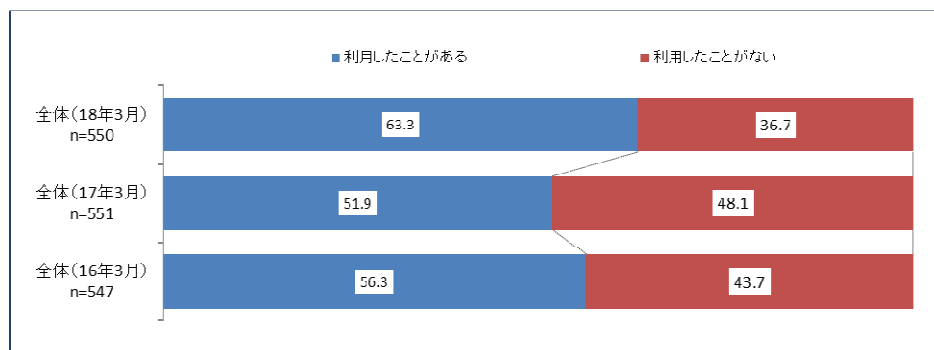
※参考

17年3月全体	
単一回答 n=551	複数回答 n=551
15.1	35.4
20.2	40.3
17.1	45.4
9.6	29.2
6.6	26.3
1.2	10.2
4.0	16.2
0.6	7.3
1.7	5.1
2.2	8.2
2.3	6.9
2.3	6.4
0.2	0.2
17.1	17.1

(3) キャリアセンターについて①【2018年3月調査】

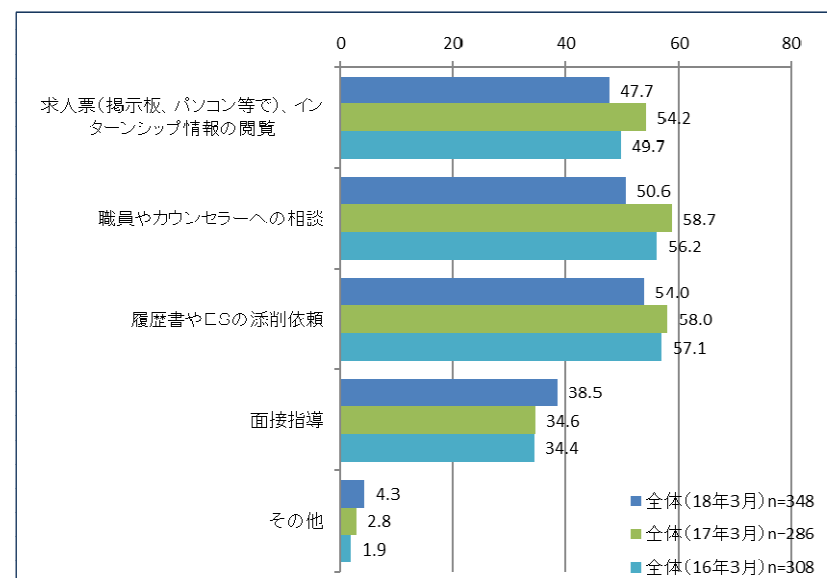
- 「キャリアセンターまたは就職課」の利用率は63.3%と前年を大幅に上回った。
- 女性、大学4年生、文系学生で利用率が高い。
- 主な利用サービスは、「履歴書やESの添削依頼」(54.0%)、「職員やカウンセラーへの相談」(50.6%)、「求人票(掲示板、パソコン等で)、インターンシップ情報の閲覧」(47.7%) の順である。

図・表. キャリアセンター利用の有無(%)



【18年3月】	n	利用したことがある	利用したことがない
男性	268	58.6	41.4
女性	282	67.7	32.3
大学4年生	428	67.1	32.9
大学院2年生	122	50.0	50.0
文系	334	66.5	33.5
理系	211	57.8	42.2

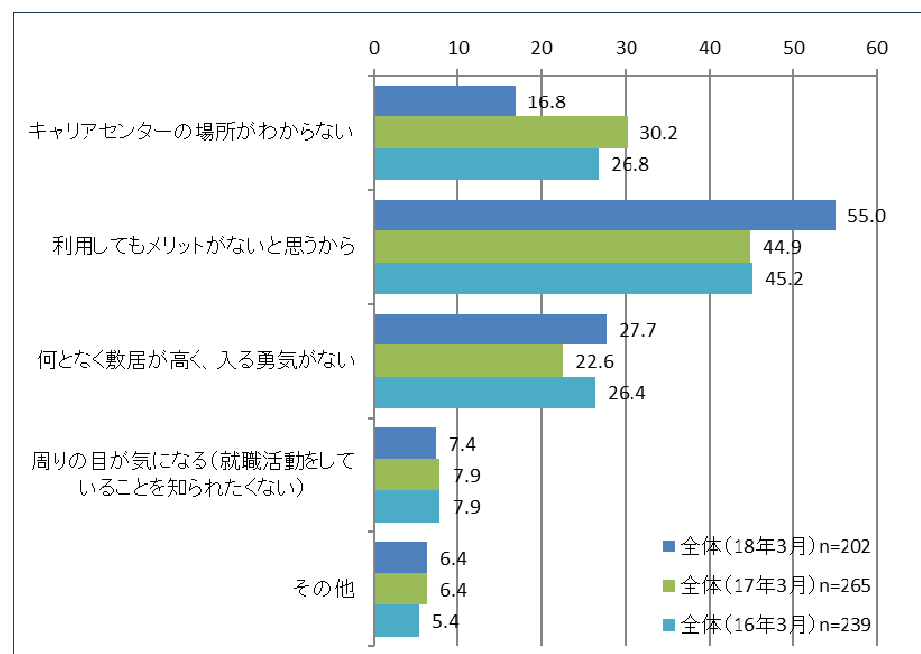
図. キャリアセンターでの利用内容(%)



(3) キャリアセンターについて②【2018年3月調査】

- キャリアセンターを利用しない最大の非利用理由は「利用してもメリットがないと思うから」(55.0%)で、非利用者の半数以上がキャリアセンターの効用を認めていない。
- 次に、「何となく敷居が高く、入る勇気がない」(27.7%)、「キャリアセンターの場所がわからない」(16.8%)などである。

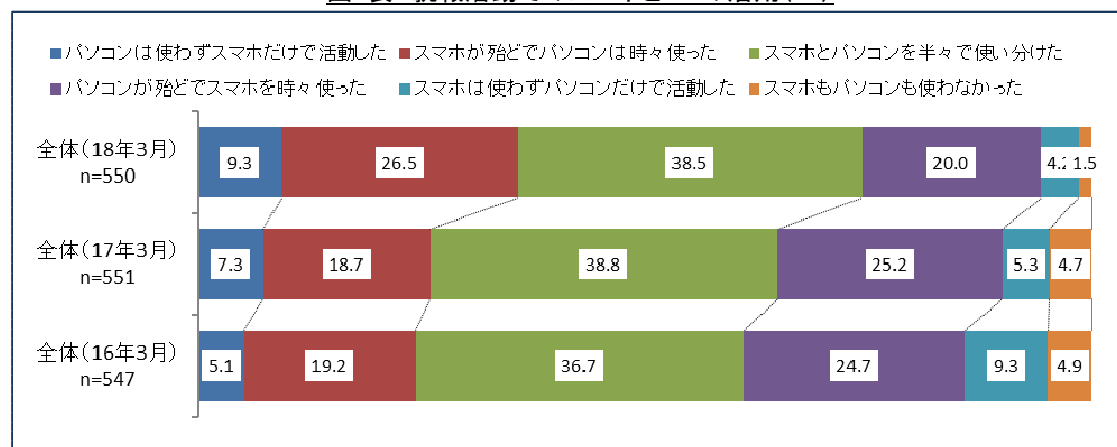
図. キャリアセンター非利用理由(%)



(4) 就職活動でのスマホとPCの活用【2018年3月調査】

- 就職活動でのスマホとパソコンの活用度合は、「スマホが殆どでパソコンは時々」が26.5%と前年から7.8%伸ばし、逆に「パソコンが殆どでスマホを時々」が前年から5.2%減の20.0%となっている。
- 「スマホが殆どでパソコンは時々」と「スマホだけで活動」(9.3%)を合わせた35.8%は、「パソコンが殆どでスマホを時々」と「パソコンだけで活動」(4.2%)の合計の24.2%を、調査開始以降初めて上回った。学生のスマホ依存の傾向が明確となっている。

図・表. 就職活動でのスマホとPCの活用(%)

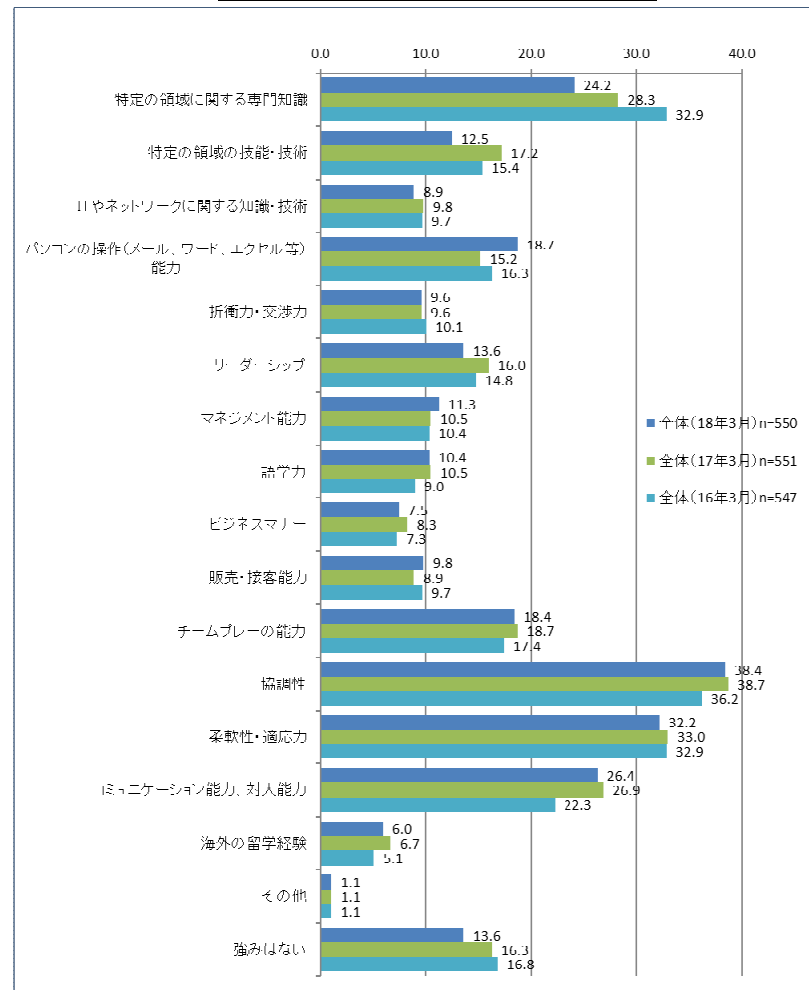


【18年3月】		n	パソコンは使わずスマホだけで活動した	スマホが殆どでパソコンは時々使った	スマホとパソコンを半々で使い分けた	パソコンが殆どでスマホを時々使った	スマホは使わずパソコンだけで活動した	スマホもパソコンも使わなかった
男性	268		9.0	20.5	39.6	23.5	6.0	1.5
女性	282		9.6	32.3	37.6	16.7	2.5	1.4
大学4年生	428		11.0	31.8	39.5	14.0	2.6	1.2
大学院2年生	122		3.3	8.2	35.2	41.0	9.8	2.5
文系	334		9.0	34.1	41.6	11.7	2.1	1.5
理系	211		10.0	14.7	33.2	33.2	7.6	1.4

(1) 職業能力に対する自身の強み【2018年3月調査】

- 自信のある能力上位5項目(16項目中)は、「協調性」(38.4%)、「柔軟性・適応力」(32.2%)、「コミュニケーション能力、対人能力」(26.4%)、「特定の領域に関する専門知識」(24.2%)、「パソコンの操作」(18.7%)である。
- 「特定の領域に関する専門知識」は2年連続下落しているが、その他の傾向は変わらない。
- 尚、「強みはない」とする就活生は全体で13.6%も存在する。

図. 職業能力に対する自身の強み(%)

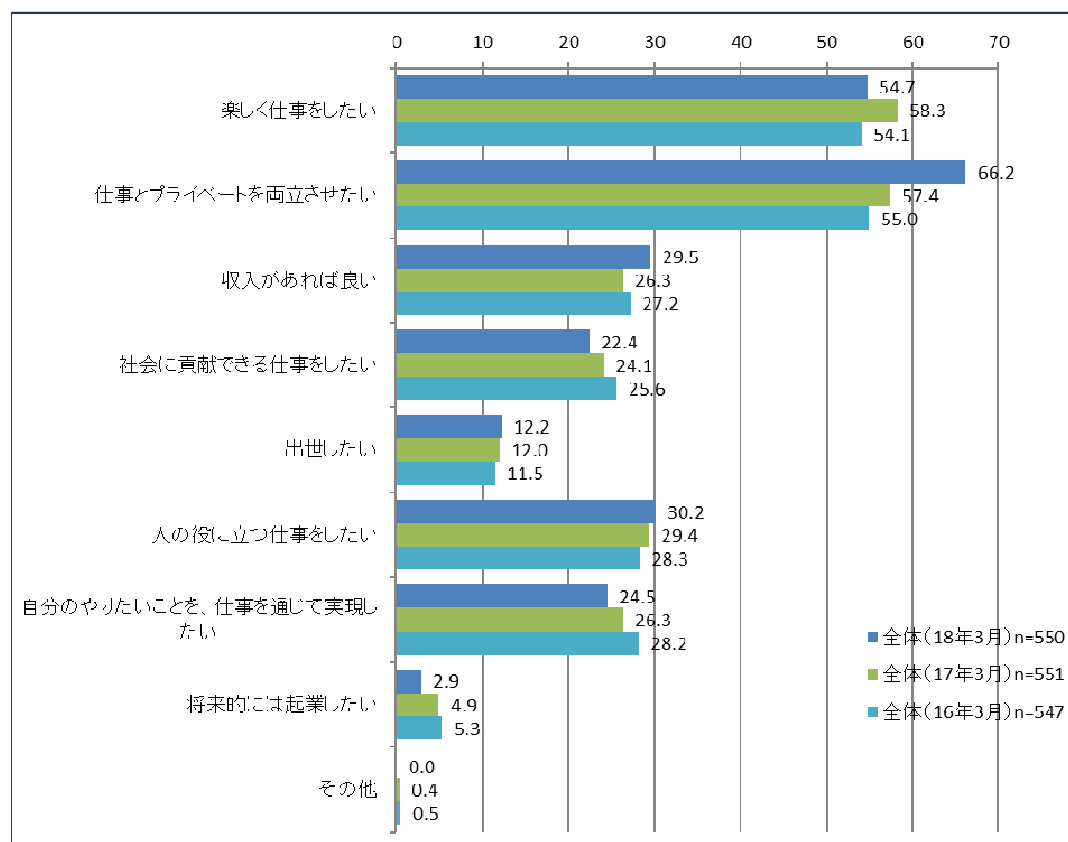


(2) 仕事観【2018年3月調査】

◆ 就活生に対し、現在どのような仕事観を持っているか尋ねた。

- 仕事観に対する回答では、「仕事とプライベートを両立させたい」が前年から8.8 %増の66.2%で最も多くなっている。
- 政府の働き方改革施策が影響しているかと推察される。

図. 仕事観(%)



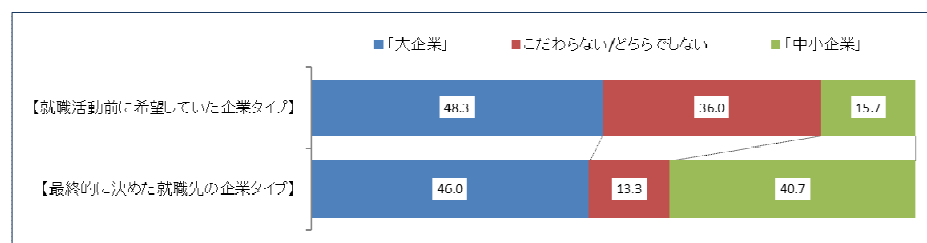
(1) 希望していた企業タイプと最終的に決めた企業タイプ【2018年3月調査】

◆ 卒業後民間企業に就職する学生(383人)を対象に、就職活動を始める前に希望していた企業タイプと実際に就職を決めた企業タイプを尋ねた。

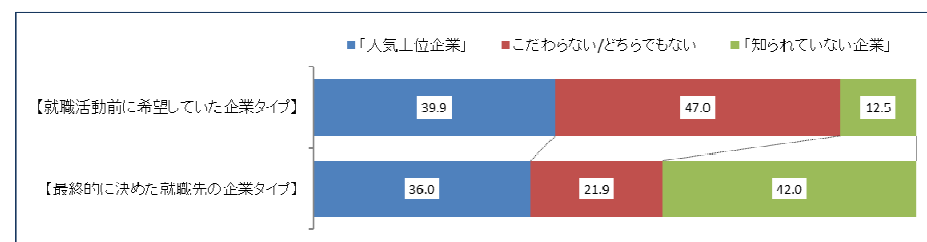
- 希望した企業タイプは、「安定企業」>「大企業」>「老舗企業」>「人気上位企業」の順である。
- 一方、実際に就職する企業タイプは「老舗企業」>「安定企業」>「大企業」>「知られていない企業」の順である。

図. 希望していた企業タイプと最終的に決めた企業タイプ(%)

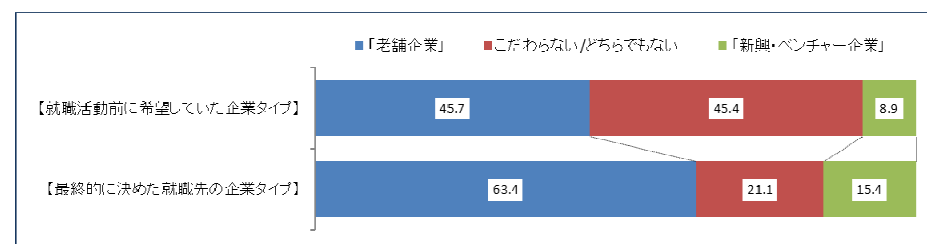
大企業
VS
中小企業



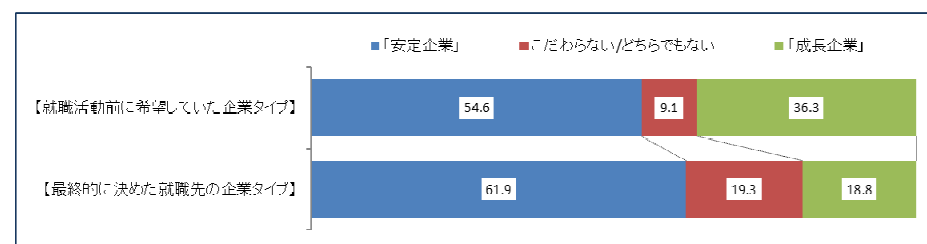
人気上位企業
VS
知られていない企業



老舗企業
VS
新興・ベンチャー企業



安定企業
VS
成長企業



(2) 希望していた企業タイプと最終的に決めた企業タイプとの相関からみた希望達成率【2018年3月調査】

◆ 希望するタイプの企業にどの程度就職できたのか(希望達成率)をみた。

- 希望達成率の高い順に企業タイプを列記すると次の通りである。
- 「老舗企業」>「中小企業」>「安定企業」>「知られていない企業」>「成長企業」>「大企業」>「人気企業」>「新興・ベンチャー企業」。

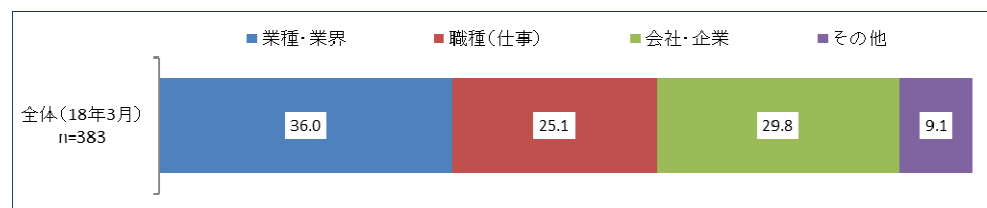
図. 希望していた企業タイプと最終的に決めた企業タイプの相関(%)

		最終的に決めた就職先		
	n	大企業	中小企業	どちらでもない
大企業	185	76.2	20.0	3.8
中小企業	60	6.7	88.3	5.0
こだわっていなかった	138	22.5	47.8	29.7
		人気企業	余り知られていない企業	どちらでもない
人気企業	153	62.7	26.1	11.1
余り知られていない企業	48	10.4	81.3	8.3
こだわっていなかった	182	20.3	45.1	34.6
		老舗企業	新興・ベンチャー企業	どちらでもない
老舗企業	175	92.0	4.0	4.0
新興・ベンチャー企業	34	26.5	61.8	11.8
こだわっていなかった	174	42.0	17.8	40.2
		安定企業	成長企業	どちらでもない
安定企業	209	87.6	5.7	6.7
成長企業	35	11.4	80.0	8.6
こだわっていなかった	139	36.0	23.0	41.0

(3) 企業選定基準【2018年3月調査】

- ◆ 最終的に就職先を選んだ基準を「業種・業界」、「会社・企業」、「職種（仕事）」の三択で聞いた。
- 最終的に就職先を選んだ基準は「業種・業界」(36.0%)が一番多かったものの、「会社・企業」(29.8%)や「職種（仕事）」(25.1%)と三者にあまり差はみられなかった。
- そのような中で、大学院生、理系学生は大学4年生、文系学生に比べ「職種（仕事）」を企業選定の基準にしている割合が高い。

図・表. 企業選定基準(%)



【18年3月】	n	業種・業界	職種（仕事）	会社・企業	その他
男性	186	40.3	24.7	26.9	8.1
女性	197	32.0	25.4	32.5	10.2
大学4年生	300	37.0	22.7	29.7	10.7
大学院2年生	83	32.5	33.7	30.1	3.6
文系	226	38.5	20.8	30.1	10.6
理系	152	33.6	30.3	29.6	6.6

(4) 具体的な企業選定基準(自由回答/MA)【2018年3月調査】

- ◆ 卒業後民間企業に就職する学生(383人)を対象に、最終的に就職先を選んだ基準を自由回答で具体的に聞いた。
- 「社風」が最も多く、77人/383人中であった。次いで「職種・仕事内容のマッチ」(40人)、「安定・有名・大企業」(39人)で、「特にない・なんとなく」という回答も48人から上がった。

表. 企業選定基準(人)

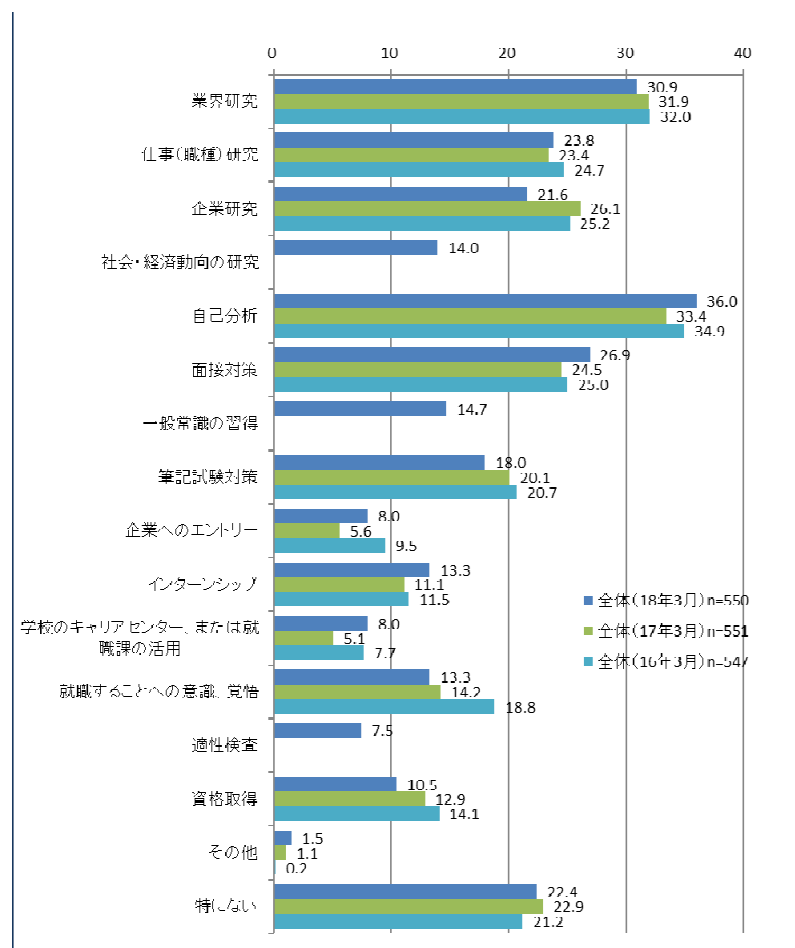
企業評価	安定	有名	大企業	39
	成長性	将来性		7
	社風			77
	職場環境	雰囲気		6
	人柄	社長・面接官・社員		3
	企業理念	社長の考え方		5
	商品に魅力	技術に魅力	良く利用	7
	社会貢献	地域貢献		6
	企業評価その他			10
待遇評価	福利厚生			13
	休み	休暇		5
	残業			2
	高収入	高待遇		16
	ワークライフバランス	プライベートと仕事の両立		3
企業とのマッチ	職種	仕事内容		40
	業種	業界		20
	専門を活かせる	語学を活かせる		20
	勤務地	地元		32
	貢献	一生働ける		2
	昇進	自分の成長	キャリアアップ	9
	仕事のやりがいがある			4
	内定をくれた	内定を一番にくれた		2
	自分を評価してくれ	必要とされた		13
	第一志望	自分の志望と合っていた		14
	やりたいことができる			11
	女性が活躍			2
	海外勤務	海外への展開		4
	企業とのマッチその他			5
就活	インターンシップ	実習		6
	面接で自分を出せた			2
	知人の勧め	知人がいる		4
	就活時の対応が良い			4
	就活その他	推薦		3
その他				
	内定がそこだけ			24
	特にない	なんとなく		48

(1) もっと早く取り組みばよかったこと【2018年3月調査】

◆ 就職活動を振り返り、「もっと早くから取り組みばよかったことは何か」を尋ねた。

- 全体では「自己分析」(36.0%)、「業界研究」(30.9%)、「面接対策」(26.9%)、「仕事(職種)研究」(23.8%)、「企業研究」(21.6%)、「筆記試験対策」(18.0%)など多岐にわたるテーマが上位に挙げた。
- 前年と比較しても大きな変化はみられない。

図. もっと早く取り組みばよかったこと(%)

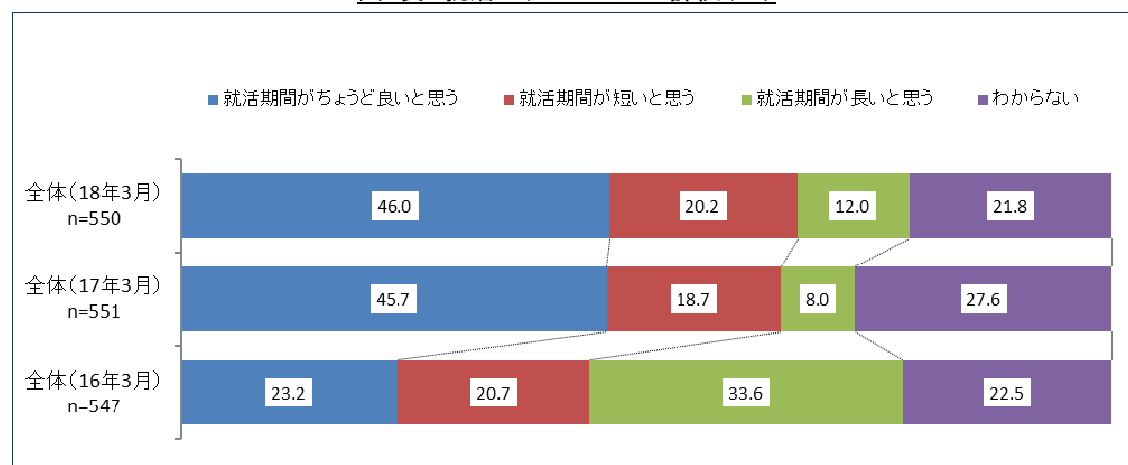


(2) 就活スケジュールの評価【2018年3月調査】

◆ 2018年卒の就活スケジュール「3月説明会開始、6月採用選考開始」は、2017年卒から継続された。この就活スケジュールを経た就活生に感想を聞いた。

- 前年(45.7%)とほぼ同様の46.0%の学生が、就活期間は「ちょうど良かった」と回答し、最も多くなっている。
- 一方、「就活期間が短いと思う」は20.2%、「就活期間が長いと思う」は12.0%である。

図・表. 就活スケジュールの評価(%)

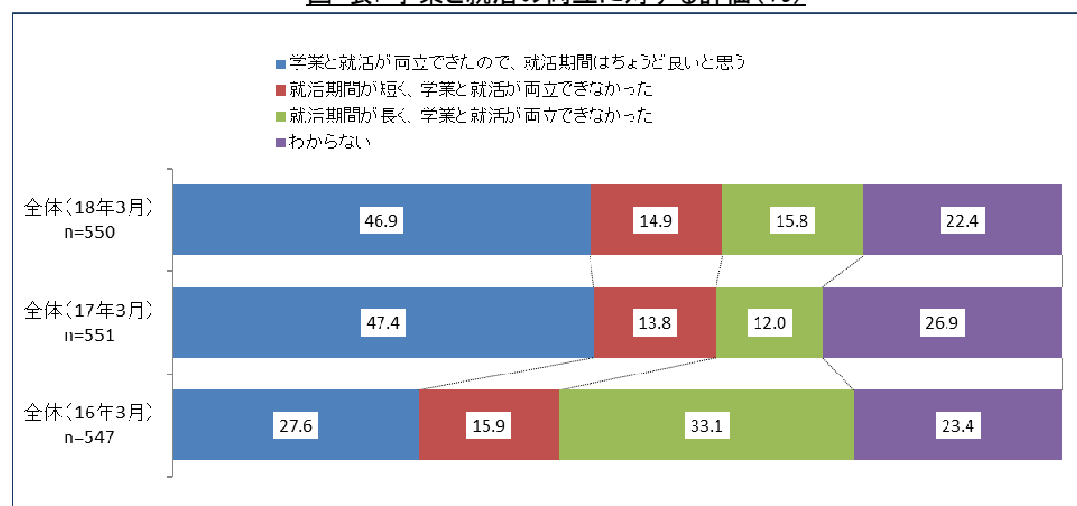


	n	就活期間が ちょうど良い と思う	就活期間が短 いと思う	就活期間が長 いと思う	わからない
【18年3月】					
男性	268	45.9	21.3	12.3	20.5
女性	282	46.1	19.1	11.7	23.0
大学4年生	428	46.5	21.7	10.7	21.0
大学院2年生	122	44.3	14.8	16.4	24.6
文系	334	47.6	21.3	10.8	20.4
理系	211	43.6	18.0	14.2	24.2

(3) 学業と就活の両立に対する評価【2018年3月調査】

- 学業との両立についても「両立できたので就活期間はちょうど良かった」が46.9%で最も多く、前年の47.4%とほぼ同様の数字となっている。
- 前頁の就活期間、学業との両立、ともに多くの学生が肯定的に捉えていることがうかがえる。

図・表. 学業と就活の両立に対する評価(%)

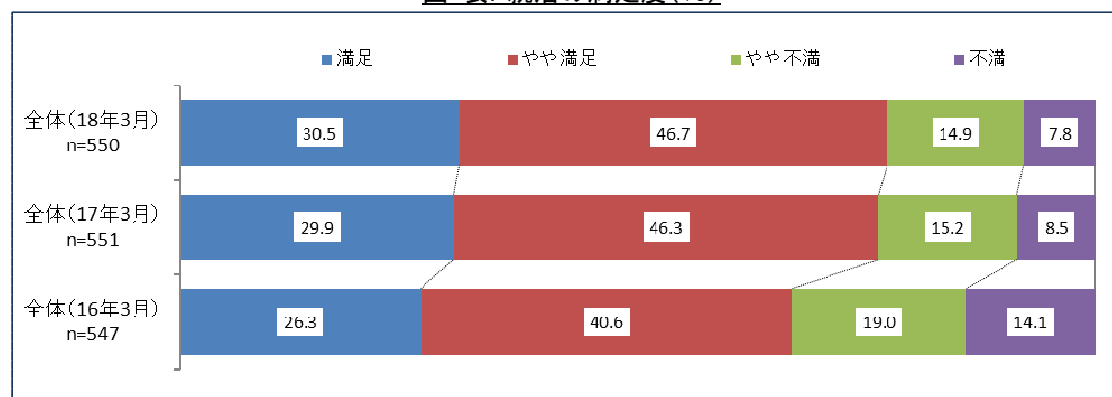


	n	学業と就活が 両立できたの で、就活期間 はちょうど良 いと思う	就活期間が短 く、学業と就 活が両立でき なかった	就活期間が長 く、学業と就 活が両立でき なかった	わからない
【18年3月】					
男性	268	43.3	16.0	15.7	25.0
女性	282	50.4	13.8	16.0	19.9
大学4年生	428	47.4	16.4	14.5	21.7
大学院2年生	122	45.1	9.8	20.5	24.6
文系	334	49.1	17.4	12.9	20.7
理系	211	43.6	10.9	20.4	25.1

(4) 就活の満足度【2018年3月調査】

- 就職活動に対する全体の満足度は、「満足」(30.5%)と「やや満足」(46.7%)を合わせると77.2%で、前年同月調査の合計76.2%と同様高い数字となっており、売り手市場を受けて、学生の希望が通りやすい状況となっていることがうかがえる。

図・表. 就活の満足度(%)



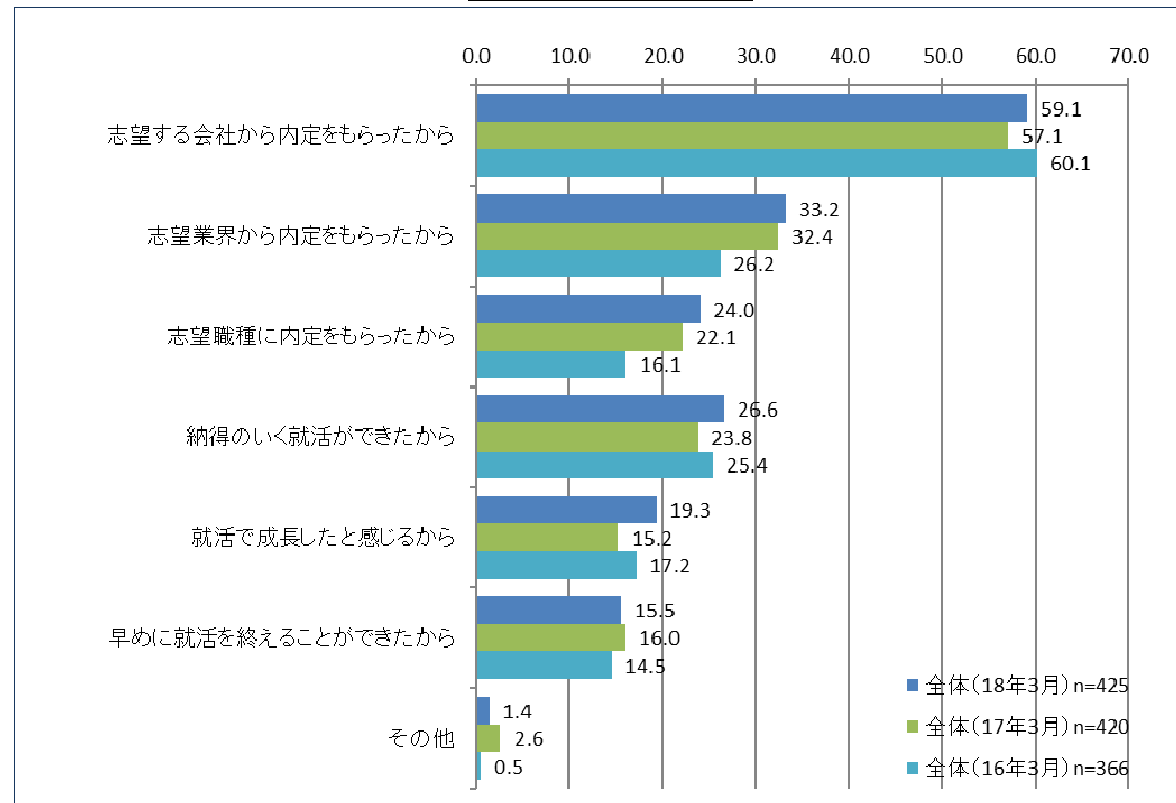
【18年3月】	n	満足	やや満足	満足計	やや不満	不満	不満計
全体	550	30.5	46.7	77.2	14.9	7.8	22.7
男性	268	32.1	42.9	75.0	13.4	11.6	25.0
女性	282	29.1	50.4	79.5	16.3	4.3	20.6
大学4年生	428	29.0	46.7	75.7	16.6	7.7	24.3
大学院2年生	122	36.1	46.7	82.8	9.0	8.2	17.2
文系	334	29.0	47.6	76.6	15.3	8.1	23.4
理系	211	33.2	45.5	78.7	14.2	7.1	21.3

(5) 就活の満足理由【2018年3月調査】

◆ 就職活動満足者(425人)に満足理由を聞いた。

➤ 「志望する会社から内定をもらったから」(59.1%)が群を抜いて高い満足理由である。次いで「志望業界から内定をもらったから」(33.2%)が挙がり、志望が叶ったことに対する満足感がうかがえる。

図. 就活の満足理由(%)

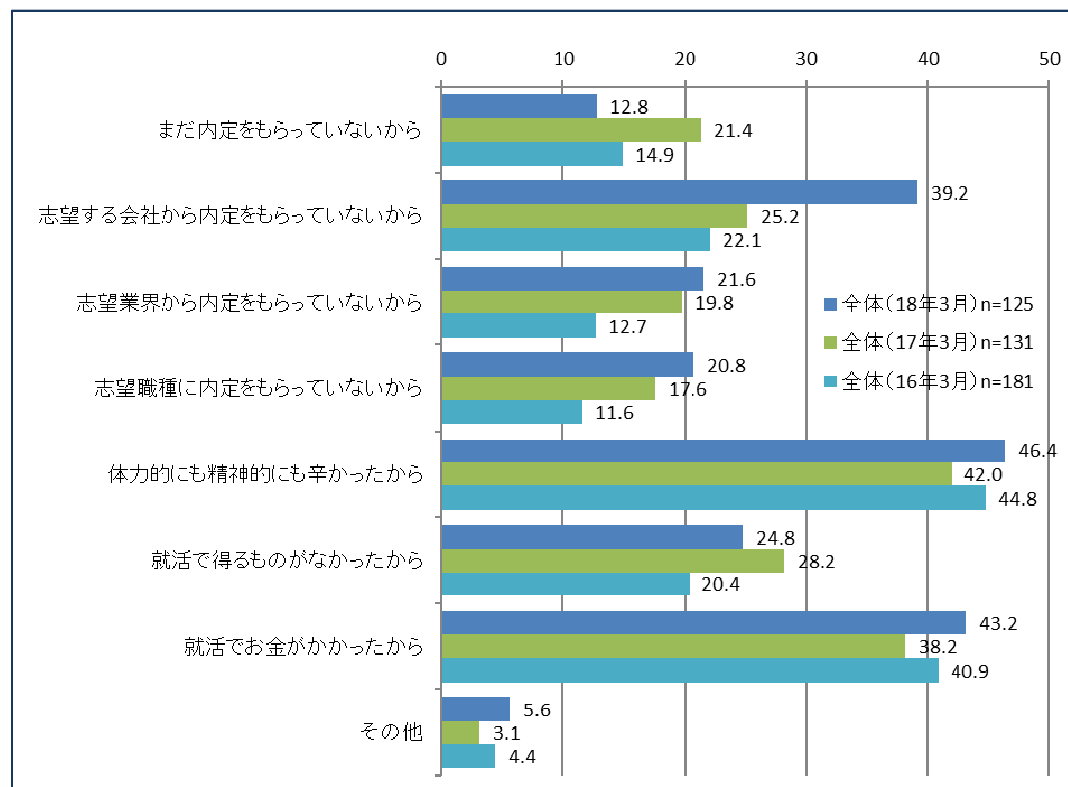


(6) 就活の不満足理由【2018年3月調査】

◆ 就職活動不満足者(125人)に不満理由を聞いた。

- 「体力的にも精神的にも辛かったから」(46.4%)、「就活でお金がかかったから」(43.2%)、「志望する会社から内定をもらっていないから」(39.2%)が3大不満理由である。
- 「志望する会社から内定をもらっていないから」は前年から14.0%増加した。

図. 就活の不満足理由(%)

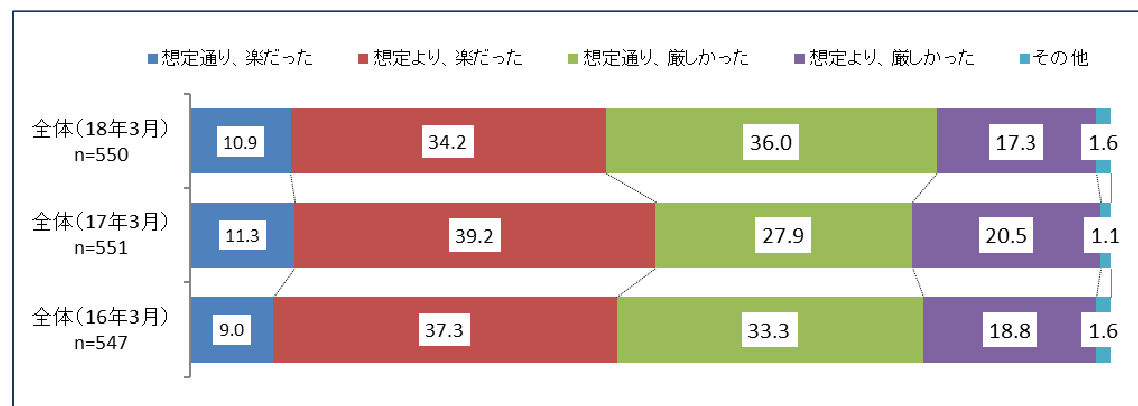


(7) 今回の就職活動の感想【2018年3月調査】

◆ 就職活動は「想定より楽だったかそれとも厳しかったか」の感想を尋ねた。

- 「想定通り楽だった」(10.9%)と「想定より楽だった」(34.2%)を合わせると45.1%で、前年同月調査の50.5%からは減少している。
- 一方「想定通り厳しかった」(36.0%)と「想定より厳しかった」(17.3%)の合計は53.3%で、前年を4.9%上回っており、前質問の満足度の高さと比べると、結果に満足しながらも活動は「厳しい」と感じていた学生も多かったことが推察される。
- また、大学院2年生は大学4年生に比べ、理系学生は文系学生に比べ「楽だった」割合が高い。

図・表. 就職活動の感想(%)

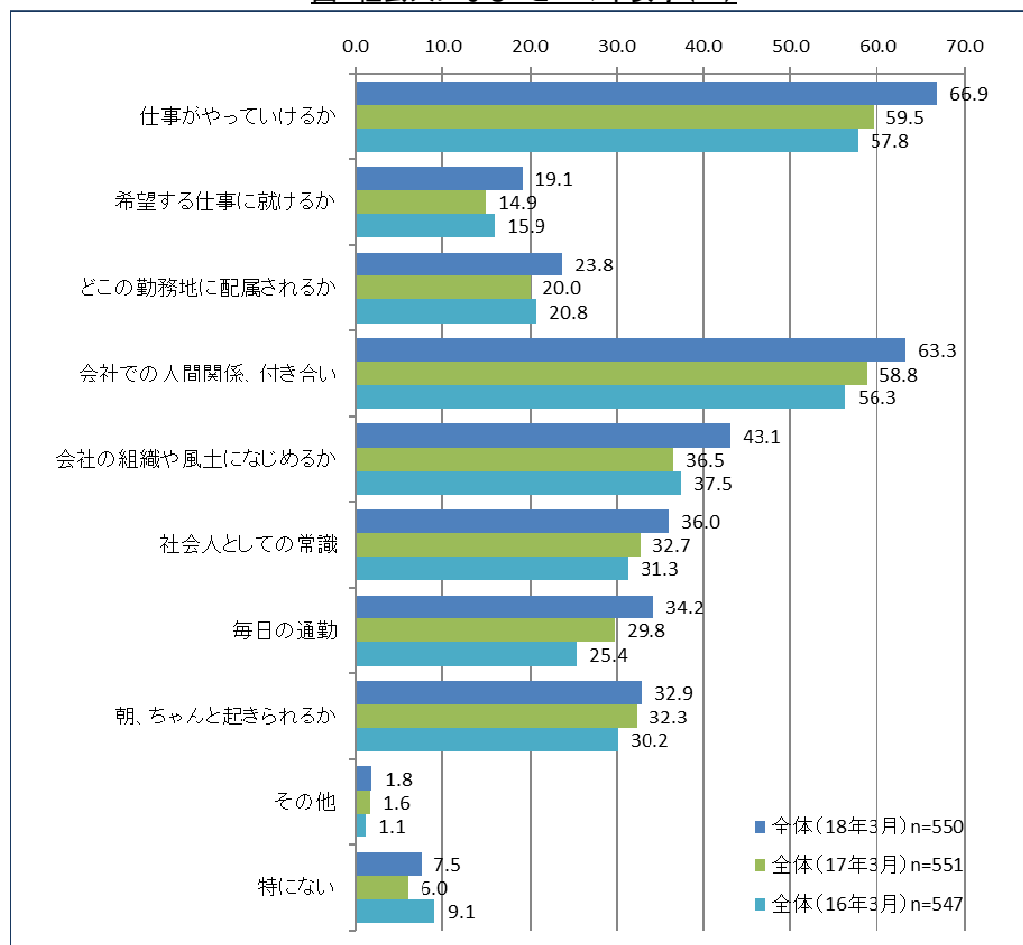


【18年3月】	n	想定通り、 楽だった	想定より、 楽だった	楽だった 計	想定通り、 厳しかった	想定より、 厳しかった	厳しかった 計	その他
全体	550	10.9	34.2	45.1	36.0	17.3	53.3	1.6
男性	268	11.6	34.0	45.6	36.2	17.2	53.4	1.1
女性	282	10.3	34.4	44.7	35.8	17.4	53.2	2.1
大学4年生	428	8.6	33.4	42.0	38.8	17.5	56.3	1.6
大学院2年生	122	18.9	36.9	55.8	26.2	16.4	42.6	1.6
文系	334	7.2	31.1	38.3	41.9	18.9	60.8	0.9
理系	211	17.1	39.3	56.4	26.5	14.2	40.7	2.8

(8) 社会人になることへの不安事【2018年3月調査】

- 社会人になることへの不安事は、「仕事ができるか」(66.9%)と「会社での人間関係、付き合い」(63.3%)が上位2項目である。
- 次いで、「会社の組織や風土になじめるか」(43.1%)、「社会人としての常識」(36.0%)、「朝、ちゃんと起きられるか」(32.9%)なども挙げられている。
- 回答傾向は、前年と上回っている項目がほとんどだが、傾向は変わらない。

図. 社会人になることへの不安事(%)



『大学生の就職活動実態』に関するアンケート

「本調査は、一般財団法人 雇用開発センターが、これから職業生活に入ろうとする学生の皆様に対して、就職活動実態等をお伺いし、今後の財団の情報支援事業の参考とすることを目的として行っているもので、イプソス株式会社はこの調査を受託しております。

この調査・研究事業に多くの皆様のお考えを反映いたしたく、当アンケートへのご協力をお願いする次第です。

- 1 お答えいただいたデータは一般財団法人 雇用開発センターに提供いたします。
- 2 データは研究目的のみに使用され、その他の目的には一切使用されません。
- 3 データ分析の際には回答以外の情報（氏名・住所等）は提供されません。
- 4 情報は全て統計処理された上で研究目的のもとに公表されるので、回答そのものが公表されることはありません。
- 5 また、弊社と一般財団法人 雇用開発センターとの契約により、他の第三者に皆様の回答内容を提供することは一切ございません。

ご多忙中恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。」

一般財団法人 雇用開発センター
http://www.earc.or.jp/

イプソス株式会社
http://www.ipso.jp/

Q1	性別	性別をお知らせください。	1 男性	SA	全員
(Q1)			2 女性		
Q2	生年月	生年月をお知らせください。	()年 ()月 ※プルダウン	FA	全員
(Q2)					
Q3	職業/学校種別	あなたは現在、学生ですか。 学生の方は、どちらの学校に通っていますか。	1 四年制大学(大学院含む) 2 短期大学・高専・専門学校 終了 3 学生ではない(会社員・フリーター・浪人生含む) 終了	SA	全員
(Q3)					
Q4	学年	あなたの学年(3月現在/卒業前)をお知らせください。	1 大学1年生 終了 2 大学2年生 終了 3 大学3年生 終了 4 大学4年生 5 大学院1年生 終了 6 大学院2年生	SA	全員
(Q4)					
Q4-1	卒業年次	あなたが、現在の学校を卒業するのは(予定を含む)、いつですか。(1つだけ)	1 今年度(3月) 2 来年度以降 終了	SA	Q4=4・6
(Q4-1)					
※以下、該当者全員					
Q5	就職活動	あなたは、就職活動をしましたか。または、就職活動をしていますか。(1つだけ)	1 すでに就職活動を終了 2 現在、就職活動中である 3 就職活動をしていない 終了	SA	全員
(Q5)					

※ここからは、内定の状況についてお伺いします。

Q6	内定の状況	あなたはこれまでに、内定を受けましたことがありますか。(1つだけ) (Q6) 内定をすでに辞退した場合も「受けた」に含みます。	1 内定を受けた Q7へ 2 まだ、内定を受けていない Q8へ	SA	全員
Q7	内定数	あなたは、合計で何社の内定を受けられましたか。	()社 ※1～99	FA	Q6=1
(Q7)					
Q8	内定の辞退	あなたはこれまでに、内定の辞退をしたことがありますか。(1つだけ) (Q8)	1 内定の辞退をしたことがある Q9へ 2 内定の辞退をしたことがない Q10へ	SA	全員
Q9	内定辞退数	あなたは、合計で何社の内定を辞退しましたか。	()社 ※1～99	FA	Q8=1
(New)					
Q10	内定辞退時期	あなたは、何月頃内定を辞退しましたか。辞退した月をすべてお答えください。(いくつでも)	1 2016年10月以前 2 2016年11月 3 2016年12月 4 2017年1月 5 2017年2月 6 2017年3月 7 2017年4月 8 2017年5月 9 2017年6月 10 2017年7月 11 2017年8月 12 2017年9月 13 2017年10月 14 2017年11月 15 2017年12月 16 2018年1月 17 2018年2月 18 2018年3月	MA	Q8=1
(Q10)					
※ここからは、就職活動のことについてお伺いします。					
Q11	就職活動の開始時期	あなたは、就職活動をいつ頃から始めましたか。(1つだけ) (Q11)	1 2016年10月以前 2 2016年11月頃から 3 2016年12月頃から 4 2017年1月頃から 5 2017年2月頃から 6 2017年3月以降	SA	全員
Q12	面接社数	あなたは今まで、何社ぐらい面接を受けましたか。	()社 ※面接を受けていない方は「0」と入力してください	FA	全員
(Q12)					

Q13 面接の開始時期 (Q13)	あなたは、選考(面接)をいつから受けましたか。(1つだけ)	1 2016年10月以前	SA	Q12=1以上
		2 2016年11月		
		3 2016年12月		
		4 2017年1月		
		5 2017年2月		
		6 2017年3月		
		7 2017年4月		
		8 2017年5月		
		9 2017年6月		
		10 2017年7月		
		11 2017年8月		
		12 2017年9月		
		13 2017年10月		
		14 2017年11月		
		15 2017年12月		
		16 2018年1月		
		17 2018年2月		
		18 2018年3月		
Q14 面接時の企業の対 応(良い点) (Q14)	企業の選考(面接)で、あなたが印象良かったと思う点を いくつでもお知らせください。(いくつでも)	1 威圧的でなく学生目線で話してくれる	MA	Q12=1以上
		2 会社全体や現場のことに精通している		
		3 熱心で熱い面接官だった		
		4 身だしなみがきちんとしている		
		5 表情が穏やかで笑顔で対応してくれる		
		6 話をじっくり聞いてくれる聞き上手である		
		7 学生の目をしっかり見てくれる		
		8 話が上手で説明も分かりやすい		
		9 選考ステップがしっかりしており、じっくり選考し てくれる		
		10 内定承諾を強要せず、じっくり考えさせてくれる		
		11 その他()		
		12 印象が良かったと思う点は特になし 排他		
Q15 面接時の企業の対 応(悪い点) (Q15)	では、企業の選考(面接)で、あなたが印象が悪かったと思 う点をいくつでもお知らせください。(いくつでも)	1 威圧的で学生の立場を考えない	MA	Q12=1以上
		2 会社全体や現場のことを良く知らない		
		3 無気力で冷めた感じ		
		4 身だしなみがだらしない		
		5 表情が乏しく笑顔で対応しない		
		6 話をじっくり聞いてもらえない		
		7 学生の目を見て話さない		
		8 話が下手で説明が分かりにくい		
		9 選考ステップが少なく、結果が出るのが早い		
		10 内定承諾を強要し、就職活動が終わるように迫ら れた		
		11 その他()		
		12 印象が悪かったと思う点は特になし 排他		

Q16 就職活動内容 (Q16)	あなたは、どのような就職活動をしていますか(しました か)。(いくつでも)	1 インターンシップ (→ 社)	MA	全員
		2 就職情報サイト(ナビ)への登録		
		3 企業へのエントリー (→ 社)		
		4 合同企業説明会への参加(就職情報会社主催 等) (→ 回)		
		5 単独の会社説明会への参加 (→ 社)		
		6 学内の合同企業説明会への参加 (→ 回)		
		7 会社訪問 (→ 社)		
		8 OB・OG訪問 (→ 社)		
		9 有料の就職塾・就職ゼミ		
		10 その他()		
		11 上記のような就職活動は起こっていない 排他		
→Q16で1を選ばなかった人はQ23へ				
※ここからは、インターンシップの条件についてお伺いします。				
Q17 インターンシップの 参加期間 (Q17)	「インターンシップ」の参加期間はどれくらいでしたか。 複数参加された方は、参加したことのある「期間」をすべて お知らせください。(いくつでも)	1 1日	MA	Q16=1
		2 2日		
		3 3日以上1週間未満		
		4 1週間以上2週間未満		
		5 2週間以上1カ月未満		
		6 1か月以上3カ月未満		
		7 3か月以上		
Q18 インターンシップ参 加時期 (Q18)	「インターンシップ」に参加するとしたら、いつ頃実施するプ ログラムを選択しますか(しましたか)。(いくつでも)	マトリクス・表側	MA	Q16=1
		1 1年生		
		2 2年生		
		3 3年生		
		4 4年生		
		5 その他()		
		マトリクス・表頭		
		1 4月		
		2 5月		
		3 6月		
		4 7月		
		5 8月		
		6 9月		
7 10月				
8 11月				
9 12月				
10 1月				
11 2月				
12 3月				
Q19 インターンシップ情 報の入手ルート (Q19)	「インターンシップ」の情報はどこで知りましたか。(いくつで も)	1 学校のキャリアセンター、または就職課	MA	Q16=1
		2 インターンシップ情報サイト		
		3 企業のホームページ		
		4 友人、先輩から		
		5 新卒応援ハローワーク		
		6 その他()		

Q20 インターンシップの内容	参加した「インターンシップ」の内容を教えてください。(いくつかでも)	1 会社見学、職場見学、工場見学 2 実際の仕事体験 3 社長、人事、社員の講義・セミナー 4 グループワーク 5 社員との交流会、懇親会 6 その他()	MA	Q16=1
(Q20)				
Q21 インターンシップ参加企業の印象	「インターンシップ」に参加した企業に就職したいと思いましたか。(1つだけ) ※インターンシップに参加した企業が複数ある場合は、メインの1社についてお答えください。	1 最初から志望企業だったので、就職したいと思った 2 参加して就職したいと思った 3 参加して就職したいとは思わなかった 4 あくまで社会経験の一環として参加した	SA	Q16=1
(Q21)				
Q22 インターンシップ参加企業への就職	では結果的に「インターンシップ」に参加した企業に就職しましたか。(1つだけ)	1 「インターンシップ」に参加した企業に就職した 2 「インターンシップ」に参加した企業には就職しなかった	SA	Q16=1
(Q22)				
※ここからは、企業へのエントリーや説明会の時期についてお伺いします。				
Q23 企業へのエントリー開始時期	あなたは、企業へのエントリーをいつから行いましたか。(1つだけ)	1 2016年10月以前 2 2016年11月 3 2016年12月 4 2017年1月 5 2017年2月 6 2017年3月 7 2017年4月 8 2017年5月 9 2017年6月 10 2017年7月 11 2017年8月 12 2017年9月 13 2017年10月 14 2017年11月 15 2017年12月 16 2018年1月 17 2018年2月 18 2018年3月	SA	Q16=3
(Q23)				

Q24 合同企業説明会への参加開始時期	あなたは、情報会社等が主催する合同企業説明会に、いつから参加しましたか。(1つだけ)	1 2016年10月以前 2 2016年11月 3 2016年12月 4 2017年1月 5 2017年2月 6 2017年3月 7 2017年4月 8 2017年5月 9 2017年6月 10 2017年7月 11 2017年8月 12 2017年9月 13 2017年10月 14 2017年11月 15 2017年12月 16 2018年1月 17 2018年2月 18 2018年3月	SA	Q16=4
(Q24)				
Q25 会社説明会への参加開始時期	あなたは、企業の単独説明会に、いつから参加しましたか。(1つだけ)	1 2016年10月以前 2 2016年11月 3 2016年12月 4 2017年1月 5 2017年2月 6 2017年3月 7 2017年4月 8 2017年5月 9 2017年6月 10 2017年7月 11 2017年8月 12 2017年9月 13 2017年10月 14 2017年11月 15 2017年12月 16 2018年1月 17 2018年2月 18 2018年3月	SA	Q16=5
(Q25)				
Q26 Uターン就職活動の有無	あなたは、Uターン就職活動を行いましたか。(1つだけ) ※「Uターン就職」とは進学で上京し、出身地を離れた学生が、地元へ帰って地方で就職することです。「Uターン就職」は、出身地に関係なく地方(各地域)企業に就職することです。	1 Uターン就職活動を行った、行っている 2 Uターン就職活動は行っていない	Q27へ Q28へ	SA 全員
(Q26)				
Q27 Uターンでの就職	ではあなたは実際に、Uターン就職をすることになりましたか。(1つだけ)	1 Uターン就職をする 2 Uターン就職はしない	SA	Q26=1
(Q27)				

※ここからは、就職情報についてお伺いします。				
Q28	就職情報サイト	あなたが今までに登録したことのある「就職情報サイト」を、次の中からいくつでもお知らせください。(いくつでも)	1 リクナビ 2 マイナビ 3 キャリタス就活(ディスコ) 4 ダイヤモンド就活ナビ 5 プンナビ(文化放送就職ナビ) 6 あさがくナビ(朝日学情ナビ) 7 アクセス就活 8 JOBRASS(アイデム) 9 みんなの就職活動日記 10 その他() 11 就職サイトに登録したことはない 該当	MA 全員
(Q28)				
Q28-1	就職情報サイト(SA)	その中で最も利用した「就職情報サイト」は何ですか。(1つだけ)	Q28で選択したものだけを表示 (Q28がSA回答の場合は、自動的にONしてスキップ)	SA Q28=1~10
(Q28-1)				
Q29	就職活動方法の情報入手源	あなたは、「就職活動の方法」をどこから学びましたか。次の中からいくつでもお知らせください。(いくつでも)	1 学校のキャリアセンター、または就職課 2 就職情報サイト 3 学内での就職ガイダンス 4 先輩 5 友人 6 就職対策書籍 7 企業のホームページ 8 SNS 9 新卒応援ハローワーク 10 家族 11 教授 12 民間の就職エージェント、アドバイザー 13 その他() 14 どこからも学んでいない 該当	MA 全員
(Q29)				
Q29-1	就職活動方法の情報入手源(SA)	その中で、最も役に立ったものは何ですか。(1つだけ)	Q29で選択したものだけを表示 (Q29がSA回答の場合は、自動的にONしてスキップ)	SA Q29=1~13
(Q29-1)				
Q30	キャリアセンター利用の有無	あなたはこれまでに、自分の学校の「キャリアセンター」または「就職課」を利用したことがありますか。(1つだけ)	1 利用したことがある Q31へ 2 利用したことがない Q32へ	SA 全員
(Q30)				
Q31	キャリアセンター利用状況	あなたはこれまでに「キャリアセンター」または「就職課」で、どのようなサービスを利用しましたか。(いくつでも)	1 求人票(掲示板、パソコン等で)、インターンシップ情報の閲覧 2 職員やカウンセラーへの相談 3 履歴書やESの添削依頼 4 面接指導 5 その他()	MA Q30=1
(Q31)				
Q32	キャリアセンターを利用しない理由	あなたが「キャリアセンター」または「就職課」を利用しなかった理由をお知らせください。(いくつでも)	1 そもそもキャリアセンターの場所がわからない 2 利用してもメリットがないと思うから 3 何となく敷居が高く、入る勇気がない 4 周りの目が気になる(就職活動をしていることを知られたくない) 5 その他()	MA Q30=2
(Q32)				
Q33				

Q33	就職活動でのスマホとパソコンの活用	あなたは、就職活動において、スマホとパソコンをどのように活用しましたか。次の中から最も近いものをお選びください。(1つだけ)	1 パソコンは使わずスマホだけで活動した 2 スマホが殆どでパソコンは時々使った 3 スマホとパソコンを半々で使い分けた 4 パソコンが殆どでスマホを時々使った 5 スマホは使わずパソコンだけで活動した 6 スマホもパソコンも使わなかった	SA 全員
(Q33)				
※ここからは、就活の満足度などについてお伺いします。				
Q34	就活スケジュールについて	今年の就活スケジュール(3月エントリー開始、6月選考開始)について、どう思いますか。(1つだけ)	1 就活期間がちょうど良かった 2 就活期間が短かったと思う 3 就活期間が長かったと思う 4 わからない	SA 全員
(Q34)				
Q35	学業との両立	では、学業との両立を考えた場合、今年の就活スケジュールはどう思いますか。(1つだけ)	1 学業と就活が両立できたので、就活期間はちょうど良かったと思う 2 就活期間が短く、学業と就活が両立できなかった 3 就活期間が長く、学業と就活が両立できなかった 4 わからない	SA 全員
(Q35)				
Q36	就活の満足度	あなたは、就職活動に満足していますか。(1つだけ)	1 満足 Q37 2 やや満足 Q37 3 やや不満 Q38 4 不満 Q38	SA 全員
(Q36)				
Q37	就活の満足理由	あなたが、就職活動で満足をした理由をお知らせください。(いくつでも)	1 志望する会社から内定をもらったから 2 志望業界から内定をもらったから 3 志望職種に内定をもらったから 4 納得のいく就活ができたから 5 就活で成長したと感じるから 6 早めに就活を終えることができたから 7 その他()	MA Q36=1~2
(Q37)				
Q38	就活の不満理由	あなたが、就職活動で満足しなかった理由をお知らせください。(いくつでも)	1 まだ内定をもらっていないから 2 志望する会社から内定をもらっていないから 3 志望業界から内定をもらっていないから 4 志望職種に内定をもらっていないから 5 体力的にも精神的にも辛かったから 6 就活で得るものがなかったから 7 就活でお金がかかったから 8 その他()	MA Q36=3~4
(Q38)				
Q39	就活の感想	今年の就職活動の感想をお知らせください。(1つだけ)	1 想定通り、楽だった 2 想定より、楽だった 3 想定通り、厳しかった 4 想定より、厳しかった 5 その他()	SA 全員
(Q39)				

Q40	社会人になるにあたって不安なこと	あなたは、社会人になるにあたって、不安なことはありますか。(いくつでも)	1 仕事やっていたか 2 希望する仕事に就けるか 3 この勤務地に配属されるか 4 会社での人間関係、付き合い 5 会社の組織や風土になじめるか 6 社会人としての常識 7 毎日の通勤 8 朝、ちゃんと起きられるか 9 その他() 10 特にない	MA	全員
(Q50)					
Q41	就活でもっと早くから取り組めばよかったこと	あなたが就職活動をする際、もっと早くから取り組めばよかったことはありますか。次の中からいくつでもお知らせください。(いくつでも)	1 業界研究 2 職種(仕事)研究 3 企業研究 4 社会・経済動向の研究 5 自己分析 6 面接対策 7 一般常識の習得 8 筆記試験対策 9 企業へのエントリー 10 インターンシップ 11 学校のキャリアセンター、または就職課の活用 12 就職することへの意識、覚悟 13 適性検査 14 資格取得 15 その他() 16 特にない	MA	全員
(Q42)					
※ここからは、あなたの仕事感や職業能力についてお伺いします。					
Q42	仕事観	あなたの仕事観に近いと思うものを、次の中から3つまでお選びください。(3つまで)	1 楽しく仕事をしたい 2 仕事とプライベートを両立させたい 3 収入があげば良い 4 社会に貢献できる仕事をしたい 5 出世したい 6 人の役に立つ仕事をしたい 7 自分のやりたいことを、仕事を通じて実現したい 8 将来的には起業したい 9 その他()	SLA	全員
(Q39)					

Q43	職業能力の自身の強み	次における職業能力それぞれについて、あなたご自身の「強味」だと思ふことをいくつでもお選びください。(いくつでも)	1 特定の領域に関する専門知識 2 特定の領域の技能・技術 3 ITやネットワークに関する知識・技術 4 パソコンの操作(メール、ワード、エクセル等)能力 5 折衝力・交渉力 6 リーダーシップ 7 マネジメント能力 8 語学力 9 ビジネスマナー 10 販売・接客能力 11 チームプレーの能力 12 協調性 13 柔軟性・適応力 14 コミュニケーション能力、対人能力 15 海外の留学経験 16 その他() 17 強みはない	MA	全員
(Q38)					
※ここからは、3月までの在学時についてお伺いします。					
Q44	国公立	あなたが現在通っている(3月まで通っていた)学校は、国公立のいずれですか。	1 国立 2 公立 3 私立	SA	全員
(Q56)					
Q45	専攻	あなたの専攻は、文系ですか。理系ですか。	1 文系 2 理系 3 その他()	SA	全員
(Q57)					
Q46	学校の所在地	あなたの通っている学校の所在地をお知らせください。	47 【47都道府県(ブルダウン形式)】	SA	全員
(Q58)					
※ここからは、4月からのことについてお伺いします。					
Q47	確定進路	あなたの卒業後の進路をお知らせください。(1つだけ)	1 民間企業で働く 2 教員、公務員、団体職員として働く 3 進学する 4 留学する 5 起業する 6 就職活動を継続する 7 その他()	SA	全員
(Q61)					
※3・4を選んだ場合は終了					
Q48	雇用形態	では、その進路先での雇用形態をお知らせください。(1つだけ)	1 正社員・正職員 2 契約社員 3 嘱託社員 4 アルバイト 5 その他()	SA	Q47=1-2or5-7
(Q62)					
※2～5を選んだ場合は終了					

Q49	就職希望企業	あなたが就職活動を始める前、就職先として、AとBのどちらを希望していましたか。(1つずつ)	マトリクス・表側	マトリクス	Q48=1
			1 A大企業→B中小企業		
			2 A人気ランキング上位企業→B一般的にあまり知られていない企業		
			3 A老舗企業→B新興・ベンチャー企業		
			4 A安定企業→B成長企業		
			マトリクス・表頭		
			1 Aを希望していた		
			2 Bを希望していた		
			3 こたわっていなかった		
(New)					
Q50	就職企業	では、最終的に決めた就職先は、AとBのどちらでしたか。(1つずつ)	マトリクス・表側	マトリクス	Q48=1
			1 A大企業→B中小企業		
			2 A人気ランキング上位企業→B一般的にあまり知られていない企業		
			3 A老舗企業→B新興・ベンチャー企業		
			4 A安定企業→B成長企業		
			マトリクス・表頭		
			1 A		
			2 B		
			3 どちらでもない		
(New)					
Q51	企業選定基準	あなたが最終的に決めた就職先を選んだ基準は何ですか。次の中から1つだけお知らせください。(1つだけ)	1 業種・業界	SA	Q48=1
			2 職種(仕事)		
			3 会社・企業		
			4 その他		
(New)					
Q52	具体的な企業選定基準	あなたが、最終的にその会社を就職先として決めた理由を、具体的にお知らせください。	【自由回答】	FA	Q48=1
(New)					